

沖縄県監査委員報告第7号
令和2年9月11日

沖縄県知事 玉城 康裕 殿

沖縄県監査委員 安慶名 均
沖縄県監査委員 新垣 真 秀
沖縄県監査委員 上原 章
沖縄県監査委員 山内 末 子

令和元年度沖縄県水道事業会計及び沖縄県工業用水道事業会計の
決算審査意見書について

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により審査に付された令和元年度沖縄県水道事業会計及び工業用水道事業会計の決算について、沖縄県監査委員監査基準（令和2年沖縄県監査委員告示第1号）に準拠して審査を実施しましたので、別添のとおり意見書を提出します。

令和元年度

沖縄県水道事業会計決算審査意見書

沖縄県工業用水道事業会計決算審査意見書

令和2年9月

沖縄県監査委員

目 次

第1 審査の概要

| | | |
|---|-------|---|
| 1 | 審査の対象 | 1 |
| 2 | 審査の手続 | 1 |

第2 審査の結果及び意見

| | | |
|---|------|---|
| 1 | 審査結果 | 2 |
| 2 | 審査意見 | 6 |

第3 決算の概要

沖縄県水道事業会計

| | | |
|-----|------------------|----|
| 1 | 事業の概要について | 9 |
| (1) | 給水対象及び有収水量等 | 9 |
| (2) | 職員数 | 9 |
| (3) | 拡張事業等 | 9 |
| (4) | 建設工事等 | 10 |
| 2 | 決算諸表の概要について | 11 |
| (1) | 決算報告書 | 11 |
| (2) | 損益計算書 | 13 |
| (3) | 剰余金計算書 | 18 |
| (4) | 剰余金処分計算書 | 18 |
| (5) | 貸借対照表 | 20 |
| 3 | キャッシュ・フローの状況について | 25 |
| 別表 | 経営分析指標 | 27 |

沖縄県工業用水道事業会計

| | | |
|-----|------------------|----|
| 1 | 事業の概要について | 29 |
| (1) | 給水対象及び給水量等 | 29 |
| (2) | 職員数 | 29 |
| (3) | 建設工事等 | 29 |
| 2 | 決算諸表の概要について | 30 |
| (1) | 決算報告書 | 30 |
| (2) | 損益計算書 | 32 |
| (3) | 剰余金計算書 | 36 |
| (4) | 剰余金処分計算書 | 36 |
| (5) | 貸借対照表 | 38 |
| 3 | キャッシュ・フローの状況について | 43 |
| 別表 | 経営分析指標 | 45 |

第1 審査の概要

1 審査の対象

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、令和2年8月3日付け総財第255号をもって審査に付された令和元年度沖縄県水道事業会計及び沖縄県工業用水道事業会計の決算書及び決算附属書類について、審査を実施した。

2 審査の手続

審査に当たっては、水道事業及び工業用水道事業の運営が常に経済性を発揮するとともに、その本来の目的である公共の福祉を増進するように運営されているかどうかについて、決算書及び決算附属書類と関係書類等との照合を行い、決算諸表が事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかを検証した。

また、必要に応じて資料の提出を求め、関係当局の説明を聴取するとともに、現金出納検査及び定期監査の結果も踏まえ実施した。

第2 審査の結果及び意見

1 審査結果

審査に付された決算諸表は、地方公営企業法等の関係法規に準拠して作成され、その計数は正確であり、令和元年度の経営成績及び令和2年3月31日現在の財政状態を適正に表示しているものと認められた。

各事業の経営成績及び財政状態は、次のとおりである。

(1) 水道事業会計

ア 経営成績

令和元年度の経営成績は、表1のとおりである。

水道事業収益は286億9,071万6,208円で、営業外収益等の減により、前年度に比較して3,822万8,758円(0.1%)減少している。

水道事業費用は277億7,965万1,818円で、営業費用等の減により、前年度に比較して5億5,138万2,572円(1.9%)減少している。

水道事業収益から水道事業費用を差し引いた当年度の純利益は9億1,106万4,390円となっており、同額が当年度未処分利益剰余金となっている。

経常利益は8億3,824万9,937円で、前年度に比較して4億8,389万4,879円(136.6%)増加している。

総収支比率は103.3%で、前年度に比較して1.9ポイント上回っている。経常収支比率は103.0%で、前年度に比較して1.7ポイント上回っている。

イ 財政状態

令和元年度末の財政状態は、表2のとおりである。

資産は4,329億7,823万6,667円で、固定資産の減により、前年度に比較して31億2,447万3,504円(0.7%)減少している。

負債は3,868億813万1,939円で、繰延収益等の減により、前年度に比較して40億7,311万3,357円(1.0%)減少している。

資本は461億7,010万4,728円で、資本金等の増により、前年度に比較して9億4,863万9,853円(2.1%)増加している。

流動比率は178.3%で、前年度に比較して9.1ポイント下回っている。

自己資本構成比率は83.1%で、前年度に比較して0.1ポイント下回っている。

表1 経営成績

| 科目 | 区分 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|------------------------|----|----------------|-------|----------------|-------|---------------|--------|
| | | 金額 (A) | 構成比 | 金額 (B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 水道事業収益 | A | 28,690,716,208 | 100.0 | 28,728,944,966 | 100.0 | △ 38,228,758 | △ 0.1 |
| 営業収益 | B | 15,729,137,150 | 54.8 | 15,659,450,002 | 54.5 | 69,687,148 | 0.4 |
| 営業外収益 | C | 12,858,795,267 | 44.8 | 12,924,479,467 | 45.0 | △ 65,684,200 | △ 0.5 |
| 特別利益 | | 102,783,791 | 0.4 | 145,015,497 | 0.5 | △ 42,231,706 | △ 29.1 |
| 水道事業費用 | D | 27,779,651,818 | 100.0 | 28,331,034,390 | 100.0 | △ 551,382,572 | △ 1.9 |
| 営業費用 | E | 26,647,135,640 | 95.9 | 27,000,286,024 | 95.3 | △ 353,150,384 | △ 1.3 |
| 営業外費用 | F | 1,102,546,840 | 4.0 | 1,229,288,387 | 4.3 | △ 126,741,547 | △ 10.3 |
| 特別損失 | | 29,969,338 | 0.1 | 101,459,979 | 0.4 | △ 71,490,641 | △ 70.5 |
| 当年度純利益 | | 911,064,390 | - | 397,910,576 | - | 513,153,814 | 129.0 |
| 前年度繰越利益剰余金 | | 0 | - | 0 | - | 0 | - |
| 当年度未処分利益剰余金 | | 911,064,390 | - | 397,910,576 | - | 513,153,814 | 129.0 |
| 総収支比率 (%) A/D | | 103.3 | - | 101.4 | - | 1.9 | - |
| 経常利益 B+C-E-F | | 838,249,937 | - | 354,355,058 | - | 483,894,879 | 136.6 |
| 経常収支比率 (%) (B+C)/(E+F) | | 103.0 | - | 101.3 | - | 1.7 | - |

(注) 「構成比」欄は、四捨五入の関係上、内訳の合計と計数が一致しない場合がある。

総収支比率 = 水道事業収益 ÷ 水道事業費用 × 100

経常利益 = 営業収益 + 営業外収益 - 営業費用 - 営業外費用

経常収支比率 = (営業収益 + 営業外収益) ÷ (営業費用 + 営業外費用) × 100

表2 財政状態

| 科目 | 区分 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|------------------------|----|-----------------|--|-----------------|--|-----------------|-------|
| | | 金額 (A) | | 金額 (B) | | (A) - (B) | 増減率 |
| | | 円 | | 円 | | 円 | % |
| 資産合計 | | 432,978,236,667 | | 436,102,710,171 | | △ 3,124,473,504 | △ 0.7 |
| 固定資産 | | 413,053,448,080 | | 418,259,163,486 | | △ 5,205,715,406 | △ 1.2 |
| 流動資産 | A | 19,924,788,587 | | 17,843,546,685 | | 2,081,241,902 | 11.7 |
| 負債資本合計 | B | 432,978,236,667 | | 436,102,710,171 | | △ 3,124,473,504 | △ 0.7 |
| 負債合計 | | 386,808,131,939 | | 390,881,245,296 | | △ 4,073,113,357 | △ 1.0 |
| 固定負債 | | 62,101,310,064 | | 63,646,344,491 | | △ 1,545,034,427 | △ 2.4 |
| 流動負債 | C | 11,176,748,781 | | 9,520,562,111 | | 1,656,186,670 | 17.4 |
| 繰延収益 | D | 313,530,073,094 | | 317,714,338,694 | | △ 4,184,265,600 | △ 1.3 |
| 資本合計 | | 46,170,104,728 | | 45,221,464,875 | | 948,639,853 | 2.1 |
| 資本金 | E | 28,853,054,791 | | 28,178,892,182 | | 674,162,609 | 2.4 |
| 剰余金 | F | 17,317,049,937 | | 17,042,572,693 | | 274,477,244 | 1.6 |
| 流動比率 (%) A/C | | 178.3 | | 187.4 | | △ 9.1 | - |
| 自己資本構成比率 (%) (D+E+F)/B | | 83.1 | | 83.2 | | △ 0.1 | - |

(2) 工業用水道事業会計

ア 経営成績

令和元年度の経営成績は、表3のとおりである。

工業用水道事業収益は6億4,350万4,028円で、営業収益等の増により、前年度に比較して173万9,651円(0.3%)増加している。

工業用水道事業費用は6億447万2,672円で、営業費用等の減により、前年度に比較して2,022万3,020円(3.2%)減少している。

工業用水道事業収益から工業用水道事業費用を差し引いた当年度の純利益は3,903万1,356円となっており、同額が当年度末処分利益剰余金となっている。

経常利益は3,902万5,636円で、前年度に比較して2,194万3,825円(128.5%)増加している。

総収支比率は106.5%で、前年度に比較して3.8ポイント上回っている。経常収支比率は106.5%で、前年度に比較して3.8ポイント上回っている。

イ 財政状態

令和元年度末の財政状態は、表4のとおりである。

資産は65億5,705万7,495円で、固定資産の減により、前年度に比較して2億1,264万602円(3.1%)減少している。

負債は51億30万6,420円で、繰延収益等の減により、前年度に比較して2億5,167万1,958円(4.7%)減少している。

資本は14億5,675万1,075円で、資本金等の増により、前年度に比較して3,903万1,356円(2.8%)増加している。

流動比率は962.9%で、前年度に比較して86.3ポイント下回っている。

自己資本構成比率は91.3%で、前年度に比較して0.5ポイント上回っている。

表3 経営成績

| 区 分 科 目 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|------------------------|-------------|-------|-------------|-------|--------------|--------|
| | 金額 (A) | 構成比 | 金額 (B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 工業用水道事業収益 A | 643,504,028 | 100.0 | 641,764,377 | 100.0 | 1,739,651 | 0.3 |
| 営業収益 B | 292,023,200 | 45.4 | 275,998,555 | 43.0 | 16,024,645 | 5.8 |
| 営業外収益 C | 351,474,146 | 54.6 | 365,765,822 | 57.0 | △ 14,291,676 | △ 3.9 |
| 特別利益 | 6,682 | 0.0 | 0 | 0.0 | 6,682 | 皆増 |
| 工業用水道事業費用 D | 604,472,672 | 100.0 | 624,695,692 | 100.0 | △ 20,223,020 | △ 3.2 |
| 営業費用 E | 588,380,214 | 97.3 | 612,040,205 | 98.0 | △ 23,659,991 | △ 3.9 |
| 営業外費用 F | 16,091,496 | 2.7 | 12,642,361 | 2.0 | 3,449,135 | 27.3 |
| 特別損失 | 962 | 0.0 | 13,126 | 0.0 | △ 12,164 | △ 92.7 |
| 当年度純利益 | 39,031,356 | - | 17,068,685 | - | 21,962,671 | 128.7 |
| 前年度繰越利益剰余金 | 0 | - | 0 | - | 0 | - |
| 当年度未処分利益剰余金 | 39,031,356 | - | 17,068,685 | - | 21,962,671 | 128.7 |
| 総収支比率 (%) A/D | 106.5 | - | 102.7 | - | 3.8 | - |
| 経常利益 B+C-E-F | 39,025,636 | - | 17,081,811 | - | 21,943,825 | 128.5 |
| 経常収支比率 (%) (B+C)/(E+F) | 106.5 | - | 102.7 | - | 3.8 | - |

(注) 「構成比」欄は、四捨五入の関係上、内訳の合計と計数が一致しない場合がある。

総収支比率 = 工業用水道事業収益 ÷ 工業用水道事業費用 × 100

経常利益 = 営業収益 + 営業外収益 - 営業費用 - 営業外費用

経常収支比率 = (営業収益 + 営業外収益) ÷ (営業費用 + 営業外費用) × 100

表4 財政状態

| 区 分 科 目 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|---------------------------|---------------|--|---------------|--|---------------|--------|
| | 金額 (A) | | 金額 (B) | | (A) - (B) | 増減率 |
| | 円 | | 円 | | 円 | % |
| 資産合計 | 6,557,057,495 | | 6,769,698,097 | | △ 212,640,602 | △ 3.1 |
| 固定資産 | 5,621,523,855 | | 5,928,083,212 | | △ 306,559,357 | △ 5.2 |
| 流動資産 A | 935,533,640 | | 841,614,885 | | 93,918,755 | 11.2 |
| 負債資本合計 B | 6,557,057,495 | | 6,769,698,097 | | △ 212,640,602 | △ 3.1 |
| 負債合計 | 5,100,306,420 | | 5,351,978,378 | | △ 251,671,958 | △ 4.7 |
| 固定負債 | 474,814,117 | | 543,464,722 | | △ 68,650,605 | △ 12.6 |
| 流動負債 C | 97,158,150 | | 80,215,485 | | 16,942,665 | 21.1 |
| 繰延収益 D | 4,528,334,153 | | 4,728,298,171 | | △ 199,964,018 | △ 4.2 |
| 資本合計 | 1,456,751,075 | | 1,417,719,719 | | 39,031,356 | 2.8 |
| 資本金 E | 618,453,928 | | 587,426,051 | | 31,027,877 | 5.3 |
| 剰余金 F | 838,297,147 | | 830,293,668 | | 8,003,479 | 1.0 |
| 流動比率 (%) A/C | 962.9 | | 1,049.2 | | △ 86.3 | - |
| 自己資本構成比率 (%) (D+E+F)/B | 91.3 | | 90.8 | | 0.5 | - |

2 審査意見

令和元年度は「沖縄県企業局中長期計画（平成30年度～令和19年度）」（以下「中長期計画」という。）の2年目に当たり、施策目標である「安全で安心な水の供給」、「安定した水の供給」、「健全な経営の持続」、「県民に信頼され満足度の高い水道」の実現に向けた施策、取組を進めてきた。

令和元年度の経営成績は、水道事業会計決算で9億1,106万4,390円、工業用水道事業会計決算で3,903万1,356円の純利益を計上しているものの、施設の更新や耐震化などにより各事業会計を取り巻く経営環境は厳しい状況にある。

今後とも、中長期計画で掲げられた施策目標の実現に向けた施策、取組を着実に推進し、さらなる経営基盤の強化に努めていただくよう要望する。

(1) 水道事業会計

令和元年度は、総収益が286億9,071万6,208円に対し、総費用が277億7,965万1,818円で、9億1,106万4,390円の純利益を計上し、前年度の3億9,791万576円に比べ5億1,315万3,814円（129.0%）増加している。これは主に配水及び給水費や資産減耗費などが減少したことによる営業費用の減少によるものである。

中長期計画においては、将来的な人口減に伴い水需要が減少する一方で、施設の耐震化や老朽化に伴う更新等による資金需要の増加が見込まれており、経営状況は厳しくなることが予想される。

今後の事業運営に当たっては、中長期計画に掲げる施策目標の達成に向けて、各種施策、取組を着実に推進し、経営の健全化、効率化を図っていただきたい。

また、沖縄本島周辺離島8村への水道用水供給事業の広域化については、引き続き、着実に推進していただきたい。

(2) 工業用水道事業会計

令和元年度は、総収益が6億4,350万4,028円に対し、総費用が6億447万2,672円で、3,903万1,356円の純利益を計上し、前年度の1,706万8,685円に比べ2,196万2,671円（128.7%）増加している。これは配水及び給水費や減価償却費等の減により営業費用が減少したことなどによるものである。

また、施設利用率は54.8%で、施設規模に見合った需要が確保されておらず、供給単価（48.50円）は給水原価（51.14円）を2.64円下回っており、経営環境は依然として厳しい状況である。

今後の事業運営に当たっては、水道用水供給事業と連動して経営の効率化に努めるとともに、関係機関と連携を図りながら、工業用水道の既設管路沿線地域に立地する企業の需要開拓を推進し、経営の健全化を図っていただきたい。

第3 決算の概要

各事業会計の決算の状況は、次のとおりである。

沖縄県水道事業会計

1 事業の概要について

(1) 給水対象及び有収水量等

水道用水供給事業では、沖縄県公営企業の設置等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第30号）第3条第2項の規定により、那覇市ほか22市町村及び南部水道企業団の計24水道事業者が水道用水の供給を行っている。

令和元年度の送水量は、1億5,468万 m^3 で、前年度に比較して77万4,000 m^3 増加しており、1日平均送水量は42万2,600 m^3 となっている。

なお、有収水量等の状況は表5のとおりである。

表5 送水量等の状況

| 区分 年度 | 送水量 (A) m^3 | 有収水量 (B) m^3 | 1日最大 送水量 (C) m^3 | 1日平均 送水量 (D) m^3 | 1日送水 能力 (E) m^3 | 負荷率 (D/C) % | 有収率 (B/A) % | 施設 利用率 (D/E) % |
|----------|----------------------------|-----------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------------|
| 平成29年度 | 154,134,698 | 152,387,885 | 457,000 | 422,300 | 601,000 | 92.41 | 98.87 | 70.27 |
| 平成30年度 | 153,906,000 | 152,611,925 | 484,100 | 421,700 | 601,000 | 87.11 | 99.16 | 70.17 |
| 令和元年度 | 154,680,000 | 153,251,854 | 459,300 | 422,600 | 601,404 | 92.01 | 99.08 | 70.27 |
| 前年度比較 | 774,000 | 639,929 | Δ 24,800 | 900 | 404 | 4.90 | Δ 0.08 | 0.10 |

(注) 1 有収水量とは、料金徴収の対象となった水量のことである。

$$2 \text{ 負荷率} = \frac{1 \text{ 日平均送水量}}{1 \text{ 日最大送水量}} \times 100$$

$$3 \text{ 有収率} = \frac{\text{有収水量}}{\text{送水量}} \times 100$$

$$4 \text{ 施設利用率} = \frac{1 \text{ 日平均送水量}}{1 \text{ 日送水能力}} \times 100$$

(2) 職員数

令和2年3月31日現在の職員数は245人で、前年度に比較して7人増加している。

職員の区分別内訳は、事務職員48人、技術職員184人、再任用職員13人となっている。

(3) 拡張事業等

水道用水供給事業については、第11回事業変更認可（平成28年3月31日）で、目標年度である平成37年度（令和7年度）の1日最大給水量を58万9,000 m^3 とし、水源施設の整備や水道用水供給施設の拡張整備、老朽化施設の改良及び耐震化を計画的に推進するとともに、沖縄本島周辺離島8村への水道用水の供給を行うための施設整備を計画している。

平成30年3月から栗国村へ、令和2年3月には北大東村への供給を開始しており、他6村についても施設整備が整い次第、順次、供用開始することとしている。

水道用水供給施設については、導送水施設や北谷及び名護浄水場、水道広域化施設等の更新、耐震化等を推進している。

(4) 建設工事等

令和元年度は、水道用水供給施設整備のため貯水、取水、導水、浄水、送水施設及び離島施設の建設工事を実施している。

主な建設工事は次のとおりである。

ア 沖縄振興公共投資交付金事業（平成30年度繰越）

- (ア) 貯水施設 倉敷ダム堰堤等改良工事（負担金）
- (イ) 取水施設 宇嘉取水ポンプ場改良工事、辺野喜取水ポンプ場改良工事
- (ウ) 導水施設 東系列導水路トンネル工事、倉敷～北谷導水管布設工事
根路銘増圧ポンプ場改良工事
- (エ) 浄水施設 名護浄水場整備工事、北谷浄水場整備工事
海水淡水化センター整備工事
- (オ) 送水施設 石川～上間送水管布設工事、与那原～佐敷送水管布設工事
佐敷～玉城送水管布設工事、西原～糸満送水管布設工事
- (カ) 離島施設 水道広域化施設整備工事

イ 沖縄振興公共投資交付金事業（令和元年度）

- (ア) 貯水施設 倉敷ダム堰堤等改良工事（負担金）
- (イ) 取水施設 宇嘉取水ポンプ場改良工事、辺野喜取水ポンプ場改良工事
- (ウ) 導水施設 東系列導水路トンネル工事、宇出那覇～許田導水管布設工事
倉敷～北谷導水管布設工事、根路銘増圧ポンプ場改良工事
- (エ) 浄水施設 名護浄水場整備工事、北谷浄水場整備工事
海水淡水化センター整備工事
- (オ) 送水施設 石川～上間送水管布設工事、与那原～佐敷送水管布設工事
西原～糸満送水管布設工事
- (カ) 離島施設 水道広域化施設整備工事

ウ 沖縄振興公共投資交付金事業（令和2年度繰越）

- (ア) 貯水施設 倉敷ダム堰堤等改良工事（負担金）
- (イ) 導水施設 東系列導水路トンネル工事、宇出那覇～許田導水管布設工事
倉敷～北谷導水管布設工事
- (ウ) 浄水施設 名護浄水場整備工事、北谷浄水場整備工事
海水淡水化センター整備工事
- (エ) 送水施設 石川～上間送水管布設工事、西原～糸満送水管布設工事
- (オ) 離島施設 水道広域化施設整備工事

エ 県単独事業（令和元年度）

- (ア) 浄水施設 西原浄水場1系ろ過池高感度濁度計更新工事
- (イ) 送水施設 北谷～山里送水管排水管設置工事

2 決算諸表の概要について

(1) 決算報告書

予算額に対する決算額及び内容は、次のとおりである。

ア 収益的収入及び支出

収益的収入は、予算額301億4,809万6,000円に対し、決算額が301億623万5,685円で、収入率99.9%（前年度100.9%）である。

これは、営業外収益が8,893万6,601円減収したこと等によるものである。

収益的支出は、予算額302億6,906万9,685円に対し、決算額が289億6,092万1,695円で執行率は95.7%（前年度97.6%）となっている。

翌年度繰越額は1億4,357万7,294円で、繰越が生じた主な理由は、関係機関との調整等に不測の日数を要したことによるものである。

不用額は11億6,457万696円で、不用額が生じた理由は、動力費が当初見込みより減となったことや水道広域化関連施設整備遅れに伴う業務委託の執行見送りによる委託料の減少等によるものである。

表6 収益的収入の状況

| 科 目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 予算額に比べ 決算額の増減 | 収入率 (B) / (A) |
|------------|----------------|-----------------------------------|------------------|------------------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 第1款 水道事業収益 | 30,148,096,000 | 30,106,235,685 (1,415,519,574) | △ 41,860,315 | 99.9 |
| 第1項 営業収益 | 17,041,126,000 | 17,144,095,209 (1,414,958,059) | 102,969,209 | 100.6 |
| 第2項 営業外収益 | 12,948,005,000 | 12,859,068,399 (273,229) | △ 88,936,601 | 99.3 |
| 第3項 特別利益 | 158,965,000 | 103,072,077 (288,286) | △ 55,892,923 | 64.8 |

(注) 決算額の下段 () 書きは、仮受消費税及び地方消費税で内数である。

表7 収益的支出の状況

| 科 目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 翌年度 繰越額 | 不用額 | 執行率 (B) / (A) |
|------------|----------------|---------------------------------|-------------|---------------|------------------|
| | 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 第1款 水道事業費用 | 30,269,069,685 | 28,960,921,695 (651,759,872) | 143,577,294 | 1,164,570,696 | 95.7 |
| 第1項 営業費用 | 28,455,109,485 | 27,296,306,522 (649,170,882) | 137,571,294 | 1,021,231,669 | 95.9 |
| 第2項 営業外費用 | 1,670,398,000 | 1,632,056,845 (0) | 0 | 38,341,155 | 97.7 |
| 第3項 特別損失 | 138,562,200 | 32,558,328 (2,588,990) | 6,006,000 | 99,997,872 | 23.5 |
| 第4項 予備費 | 5,000,000 | 0 | 0 | 5,000,000 | 0.0 |

(注) 決算額の下段 () 書きは、仮払消費税及び地方消費税で内数である。

イ 資本的収入及び支出

資本的収入は、予算額169億3,437万4,000円に対し、決算額は120億5,558万3,913円で、収入率は71.2%（前年度73.1%）となっている。

これは、建設改良費の一部を翌年度に繰り越したことにより、国庫補助金37億5,827万5,000円及び企業債が11億20万円減少したことによるものである。

資本的支出は、予算額218億681万8,033円に対し、決算額は163億9,058万206円で、執行率は75.2%（前年度78.4%）となっている。

翌年度繰越額は49億6,281万3,002円で、繰越額が生じた主な理由は、工事計画の変更等に不測の日数を要したことによるものである。

不用額は4億5,342万4,825円で、不用額が生じた主な理由は、県単独事業工事の執行残等によるものである。

資本的収入額（投資償還金2億9,937万6,000円を除く）が資本的支出額に不足する額46億3,437万2,293円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額2億3,387万6,600円、減債積立金6億7,416万2,609円、過年度分損益勘定留保資金37億2,633万3,084円で補填している。

表8 資本的収入及び支出の状況

| 科 目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 予算額に比べ決算額の増減 | 収入率 (B)/(A) | |
|--------------|---------------------|--------------------------------------|----------------------|------------------|----------------|
| 第1款 資本的収入 | 円 16,934,374,000 | 円 12,055,583,913 | 円 △ 4,878,790,087 | % 71.2 | |
| 第1項 企業債 | 3,535,500,000 | 2,435,300,000 | △ 1,100,200,000 | 68.9 | |
| 第2項 国庫補助金 | 12,697,828,000 | 8,939,553,000 | △ 3,758,275,000 | 70.4 | |
| 第3項 他会計補助金 | 391,410,000 | 368,983,900 | △ 22,426,100 | 94.3 | |
| 第4項 固定資産売却代金 | 8,519,000 | 11,606,060 | 3,087,060 | 136.2 | |
| 第5項 投資償還金 | 299,376,000 | 299,376,000 | 0 | 100.0 | |
| 第6項 その他資本的収入 | 1,741,000 | 764,953 | △ 976,047 | 43.9 | |
| 科 目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 翌年度 繰越額 | 不用額 | 執行率 (B)/(A) |
| 第1款 資本的支出 | 円 21,806,818,033 | 円 16,390,580,206 (933,028,099) | 円 4,962,813,002 | 円 453,424,825 | % 75.2 |
| 第1項 建設改良費 | 17,710,081,033 | 12,300,251,241 (933,028,099) | 4,962,813,002 | 447,016,790 | 69.5 |
| 第2項 企業債償還金 | 4,061,832,000 | 4,061,831,965 | 0 | 35 | 100.0 |
| 第3項 国庫補助金返還金 | 34,905,000 | 28,497,000 | 0 | 6,408,000 | 81.6 |
| 第4項 投資 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |

(注)決算額の下段()書きは、仮払消費税及び地方消費税で内数である。

表9 資本的収支不足額に対する補填財源

(単位：円)

| | | |
|------------------------|-------------------------|-----------------|
| 資本的収入（決算額） | A（投資償還金299,376,000円を除く） | 11,756,207,913 |
| 資本的支出（決算額） | B | 16,390,580,206 |
| 収支不足額 | C = A - B | △ 4,634,372,293 |
| 補填財源 | D = E + F + G | 4,634,372,293 |
| 当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 | E | 233,876,600 |
| 減債積立金 | F | 674,162,609 |
| 過年度分損益勘定留保資金 | G | 3,726,333,084 |

(2) 損益計算書

ア 経営成績

事業の経営成績は、表10のとおりである。

表10 比較損益計算書

| 区 分 科 目 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|------------------|-------------------------|--------------|-------------------------|--------------|----------------------|---------------|
| | 金額 (A) | 構成比 | 金額 (B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業収益 | 15,729,137,150 | 54.8 | 15,659,450,002 | 54.5 | 69,687,148 | 0.4 |
| 給水収益 | 15,668,469,491 | 54.6 | 15,603,043,212 | 54.3 | 65,426,279 | 0.4 |
| その他営業収益 | 60,667,659 | 0.2 | 56,406,790 | 0.2 | 4,260,869 | 7.6 |
| 営業費用 | 26,647,135,640 | 95.9 | 27,000,286,024 | 95.3 | △ 353,150,384 | △ 1.3 |
| 原水及び浄水費 | 7,268,244,531 | 26.2 | 7,292,443,066 | 25.7 | △ 24,198,535 | △ 0.3 |
| 配水及び給水費 | 824,097,608 | 3.0 | 1,028,653,401 | 3.6 | △ 204,555,793 | △ 19.9 |
| 総係費 | 2,275,822,053 | 8.2 | 2,346,693,317 | 8.3 | △ 70,871,264 | △ 3.0 |
| 減価償却費 | 15,532,344,748 | 55.9 | 15,450,081,538 | 54.5 | 82,263,210 | 0.5 |
| 資産減耗費 | 746,613,286 | 2.7 | 882,114,882 | 3.1 | △ 135,501,596 | △ 15.4 |
| その他営業費用 | 13,414 | 0.0 | 299,820 | 0.0 | △ 286,406 | △ 95.5 |
| 営業利益(△損失) | △ 10,917,998,490 | - | △ 11,340,836,022 | - | 422,837,532 | 3.7 |
| 営業外収益 | 12,858,795,267 | 44.8 | 12,924,479,467 | 45.0 | △ 65,684,200 | △ 0.5 |
| 受取利息及び配当金 | 6,990,726 | 0.0 | 9,097,908 | 0.0 | △ 2,107,182 | △ 23.2 |
| 他会計補助金 | 96,487,865 | 0.3 | 127,933,125 | 0.4 | △ 31,445,260 | △ 24.6 |
| 長期前受金戻入 | 12,728,372,537 | 44.4 | 12,766,424,039 | 44.4 | △ 38,051,502 | △ 0.3 |
| 雑収益 | 26,944,139 | 0.1 | 21,024,395 | 0.1 | 5,919,744 | 28.2 |
| 営業外費用 | 1,102,546,840 | 4.0 | 1,229,288,387 | 4.3 | △ 126,741,547 | △ 10.3 |
| 支払利息 | 1,097,160,645 | 3.9 | 1,217,364,443 | 4.3 | △ 120,203,798 | △ 9.9 |
| 雑支出 | 5,386,195 | 0.0 | 11,923,944 | 0.0 | △ 6,537,749 | △ 54.8 |
| 経常利益 | 838,249,937 | - | 354,355,058 | - | 483,894,879 | 136.6 |
| 特別利益 | 102,783,791 | 0.4 | 145,015,497 | 0.5 | △ 42,231,706 | △ 29.1 |
| 固定資産売却益 | 113,172 | 0.0 | 0 | 0.0 | 113,172 | 皆増 |
| 過年度損益修正益 | 100,696 | 0.0 | 239,987 | 0.0 | △ 139,291 | △ 58.0 |
| その他特別利益 | 102,569,923 | 0.4 | 144,775,510 | 0.5 | △ 42,205,587 | △ 29.2 |
| 特別損失 | 29,969,338 | 0.1 | 101,459,979 | 0.4 | △ 71,490,641 | △ 70.5 |
| 過年度損益修正損 | 117,338 | 0.0 | 73,437 | 0.0 | 43,901 | 59.8 |
| その他特別損失 | 29,852,000 | 0.1 | 101,386,542 | 0.4 | △ 71,534,542 | △ 70.6 |
| 水道事業収益 | 28,690,716,208 | 100.0 | 28,728,944,966 | 100.0 | △ 38,228,758 | △ 0.1 |
| 水道事業費用 | 27,779,651,818 | 100.0 | 28,331,034,390 | 100.0 | △ 551,382,572 | △ 1.9 |
| 当年度純利益 | 911,064,390 | - | 397,910,576 | - | 513,153,814 | 129.0 |
| 前年度繰越利益剰余金 | 0 | - | 0 | - | 0 | - |
| 当年度未処分利益剰余金 | 911,064,390 | - | 397,910,576 | - | 513,153,814 | 129.0 |

(注) 1 「構成比」欄は、四捨五入の関係上、内訳の合計と計数が一致しない場合がある。

2 「水道事業収益」 = 「営業収益」 + 「営業外収益」 + 「特別利益」

3 「水道事業費用」 = 「営業費用」 + 「営業外費用」 + 「特別損失」

令和元年度の経営成績は、水道事業収益286億9,071万6,208円に対し、水道事業費用277億7,965万1,818円で、差引き9億1,106万4,390円の純利益となっている。

これを科目別にみると、営業収益157億2,913万7,150円に対し、営業費用は266億4,713万5,640円で、差引き109億1,799万8,490円の営業損失となっている。

営業外収益128億5,879万5,267円に対して、営業外費用は11億254万6,840円で、差引き117億5,624万8,427円の利益となり、これに営業損失を合計した経常利益は8億3,824万9,937円となっている。

特別利益1億278万3,791円に対して、特別損失は2,996万9,338円で、差引き7,281万4,453円の利益となっている。これに経常利益を合計した額9億1,106万4,390円が、当年度の純利益となっており、前年度の純利益3億9,791万576円に比較して5億1,315万3,814円（129.0%）増加している。

各科目の動向は次のとおりである。

(ア) 営業収益

営業収益は、前年度に比較して6,968万7,148円（0.4%）増加している。

これは、有収水量の増加により、給水収益が前年度に比較して6,542万6,279円（0.4%）増加したことなどによるものである。

(イ) 営業費用

営業費用は、前年度に比較して3億5,315万384円（1.3%）減少している。

これは、修繕費の減少等による配水及び給水費の減少や、固定資産除却費の減少により資産減耗費が減少したことなどによるものである。

(ウ) 営業外収益

営業外収益は、前年度に比較して6,568万4,200円（0.5%）減少している。

これは、固定資産除却費の減少による長期前受金戻入の減少や、臨時財政特例債の元金償還が進んだことに伴う一般会計繰入金の減により他会計補助金が減少したことなどによるものである。

(エ) 営業外費用

営業外費用は、前年度に比較して1億2,674万1,547円（10.3%）減少している。

これは、主に企業債の償還が進んだことにより、支払利息が前年度に比較して1億2,020万3,798円（9.9%）減少したことによるものである。

(イ) 特別利益

特別利益は、前年度に比較して4,223万1,706円（29.1%）減少している。

これは、送水管移設工事に係る補償金の減少により、その他特別利益が前年度に比較して4,220万5,587円（29.2%）減少したことなどによるものである。

(ロ) 特別損失

特別損失は、前年度に比較して7,149万641円（70.5%）減少している。

これは、補償対象の送水管移設工事の減により、その他特別損失が前年度に比較して7,153万4,542円（70.6%）減少したことによるものである。

イ 一般会計からの繰入金

収益的収入として一般会計から繰り入れた額は9,648万7,865円で、前年度1億2,793万3,125円に比較して3,144万5,260円（32.6%）減少している。

繰入額が収益的収入総額に占める割合は0.3%で、前年度（0.4%）と比較して0.1ポイント下回っている。

資本的収入として一般会計から繰り入れた額は3億6,898万3,900円で、前年度4億410万4,711円に比較して3,512万811円（9.5%）減少している。

繰入額が資本的収入総額に占める割合は3.1%で、前年度（3.9%）と比較して0.8ポイント下回っている。

表11 一般会計からの繰入状況

| 区分 | | 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 前年度比較 | 増減率 |
|-------|------------|----|----------------|----------------|----------------|---------------|--------|
| 収益的収入 | 繰入額(円) | | 152,416,149 | 127,933,125 | 96,487,865 | △ 31,445,260 | △ 32.6 |
| | 繰入率(%) | | 0.5 | 0.4 | 0.3 | △ 0.1 | - |
| | 収益的収入総額(円) | | 28,482,528,162 | 28,728,944,966 | 28,690,716,111 | △ 38,228,855 | △ 0.1 |
| 資本的収入 | 繰入額(円) | | 424,713,385 | 404,104,711 | 368,983,900 | △ 35,120,811 | △ 9.5 |
| | 繰入率(%) | | 3.5 | 3.9 | 3.1 | △ 0.8 | - |
| | 資本的収入総額(円) | | 12,182,181,522 | 10,446,321,728 | 12,055,583,913 | 1,609,262,185 | 13.3 |

(注) 繰入率 = $\frac{\text{繰入額}}{\text{収入総額}}$

ウ 主な経営分析指標

令和元年度の経営成績を示す主な経営分析指標は、表12のとおりである。

(ア) 総収益対総費用比率（総収支比率）

総費用に対する総収益の割合を表すもので、比率が高いほど良好な経営状況を示し当年度は103.3%で前年度に比較して1.9ポイント上回っている。

これは、総収益が0.1%減少したものの、総費用がそれを上回る1.9%減少したことによるものである。

全国平均（平成30年度）の113.2%に比較すると9.9ポイント低い状況である。

(イ) 営業収益対営業費用比率（営業収支比率）

営業費用に対する営業収益の割合を表すもので、比率が高いほど良好な経営状況を示し、当年度は59.0%で前年度に比較して1.0ポイント上回っている。

これは、営業収益が0.4%増加したことと、営業費用が1.3%減少したことによるものである。

全国平均の105.0%に比較すると46.0ポイント低い状況である。

(ロ) 企業債償還額対減価償却費比率

企業債償還額の「減価償却費から長期前受金戻入を差し引いた額」に対する割合を表すもので、本年度は144.9%で前年度の157.9%と比較して13.0ポイント下回っている。

これは企業債償還額が4.2%減少したことによるものである。

全国平均の65.2%に比較すると79.7ポイント高い状況である。

(ハ) 職員1人当たり営業収益

労働生産性を示す一つの指標で、当年度は8,456万5千円で前年度に比較して127万円（1.5%）増加している。

これは、営業収益が0.4%増加したことと、職員数が1.1%減少したことによるものである。

全国平均の1億2,593万4千円に比較すると4,136万9千円低い状況である。

(ニ) 職員1人当たり有形固定資産

有形固定資産の職員数に対する割合を示すもので、当年度は13億1,965万5千円で前年度に比較して635万2千円（0.5%）増加している。

これは、有形固定資産が0.4%減少したことと、職員数が0.9%減少したことによるものである。

全国平均の11億4,826万7千円に比べると1億7,138万8千円高い状況である。

表12 経営分析指標

| 区分 \ 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 前年度 比較 | H30年度 全国平均 |
|-----------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| 総収益対 総費用比率(%) | 102.4 | 101.4 | 103.3 | 1.9 | 113.2 |
| 営業収益対 営業費用比率(%) | 59.3 | 58.0 | 59.0 | 1.0 | 105.0 |
| 企業債償還額対 減価償却費比率(%) | 149.9 | 157.9 | 144.9 | △ 13.0 | 65.2 |
| 職員1人当たり 営業収益(千円) | 84,045 | 83,295 | 84,565 | 1,270 | 125,934 |
| 職員1人当たり 有形固定資産(千円) | 1,334,839 | 1,313,303 | 1,319,655 | 6,352 | 1,148,267 |

(注) 1 総収益対総費用比率(%) = $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

2 営業収益対営業費用比率(%) = $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$

3 企業債償還額対減価償却費比率(%) = $\frac{\text{企業債償還額}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$

4 職員1人当たり営業収益(千円) = $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$

5 職員1人当たり有形固定資産(千円) = $\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数} + \text{資本勘定所属職員数}}$

エ 1 m³当たりの供給単価及び給水原価

令和元年度の供給単価は、前年度と同額の102.24円である。

給水原価は98.02円で、前年度の101.32円に比較して3.30円(3.3%)低下しているがこれは経常費用が減少したことによるものである。

全国平均に比較すると、供給単価、給水原価共に高い状況である。

表13 供給単価及び給水原価

| 区分 \ 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 前年度 比較 | H30年度 全国平均 |
|-----------------------------------|--------|--------|--------|-----------|---------------|
| 供給単価 (円 / m ³) (A) | 102.24 | 102.24 | 102.24 | 0.00 | 84.55 |
| 給水原価 (円 / m ³) (B) | 99.46 | 101.32 | 98.02 | △ 3.30 | 73.74 |
| 差引 (A) - (B) | 2.78 | 0.92 | 4.22 | 3.30 | 10.81 |

(注) 1 供給単価 = $\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$

2 給水原価 = $\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料売却原価} + \text{不用品売却原価} + \text{附帯事業費用} + \text{長期前受金戻入})}{\text{年間総有収水量}}$

(3) 剰余金計算書

剰余金計算書については、表14のとおりである。各項目については、次のとおりである。

ア 資本金

資本金の当年度末残高は、前年度末残高281億7,889万2,182円に、減債積立金からの組入額6億7,416万2,609円を加え、288億5,305万4,791円となっている。

イ 資本剰余金

資本剰余金の当年度末残高は、前年度末残高159億7,049万9,058円に、受贈財産評価額2万9,046円、国庫補助金2,508万2,386円及び他会計補助金1,246万4,031円を加え160億807万4,971円となっている。

ウ 利益剰余金

利益剰余金の当年度末残高は、前年度末残高10億7,207万3,185円に減債積立金組入額6億7,416万2,609円を減じ、当年度未処分利益剰余金9億1,106万4,390円を加え、13億897万4,966円となっている。

エ 資本合計

資本合計の当年度末残高は、前年度末残高452億2,146万4,875円に資本金、資本剰余金及び利益剰余金の当年度変動額の合計9億4,863万9,853円を加え、461億7,010万4,728円となっている。

当年度変動額の主な要因は、当年度未処分利益剰余金9億1,106万4,390円が生じたことである。

(4) 剰余金処分計算書

剰余金処分計算書については、表15のとおりである。

当年度未処分利益剰余金の全額9億1,106万4,390円を、県議会の議決を経て減債積立金に積み立てることとしている。

表14 剰余金計算書

(単位:円)

| | 資本金 | 剰余金 | | | | | | | | | 資本合計 |
|--------------|----------------|-------------|------------|----------------|-------------|------------------|-----------------|---------------|------------------------------|-----------------|----------------|
| | | 資本剰余金 | | | | | | 利益剰余金 | | | |
| | | 受贈財産 評価額 | 工事 負担金 | 国庫 補助金 | 他会計 補助金 | その他 資本 剰余金 | 資本 剰余金 合計 | 減債 積立金 | 未処分 利益 剰余金 | 利益 剰余金 合計 | |
| 前年度末残高 | 28,178,892,182 | 216,493,363 | 54,345,000 | 15,368,323,410 | 329,680,843 | 1,656,892 | 15,970,499,508 | 674,162,609 | 397,910,576 | 1,072,073,185 | 45,221,464,875 |
| 前年度処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 397,910,576 | △ 397,910,576 | 0 | 0 |
| 議会の議決による処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 397,910,576 | △ 397,910,576 | 0 | 0 |
| 減債積立金の積立 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 397,910,576 | △ 397,910,576 | 0 | 0 |
| 処分後残高 | 28,178,892,182 | 216,493,363 | 54,345,000 | 15,368,323,410 | 329,680,843 | 1,656,892 | 15,970,499,508 | 1,072,073,185 | (繰越利益剰余金) 0 | 1,072,073,185 | 45,221,464,875 |
| 当年度変動額 | 674,162,609 | 29,046 | 0 | 25,082,386 | 12,464,031 | 0 | 37,575,463 | △ 674,162,609 | 911,064,390 | 236,901,781 | 948,639,853 |
| 条例第5条による組入額※ | 674,162,609 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 674,162,609 | 0 | △ 674,162,609 | 0 |
| 減債積立金からの組入 | 674,162,609 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 674,162,609 | 0 | △ 674,162,609 | 0 |
| 受贈財産評価額の受入 | 0 | 29,046 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29,046 | 0 | 0 | 0 | 29,046 |
| 国庫補助金の受入 | 0 | 0 | 0 | 25,082,386 | 0 | 0 | 25,082,386 | 0 | 0 | 0 | 25,082,386 |
| 他会計補助金の受入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12,464,031 | 0 | 12,464,031 | 0 | 0 | 0 | 12,464,031 |
| 国庫補助金の返還 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当年度純利益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 911,064,390 | 911,064,390 | 911,064,390 |
| 当年度末残高 | 28,853,054,791 | 216,522,409 | 54,345,000 | 15,393,405,796 | 342,144,874 | 1,656,892 | 16,008,074,971 | 397,910,576 | (当年度未処分利益剰余金) 911,064,390 | 1,308,974,966 | 46,170,104,728 |

※沖縄県公営企業の設置等に関する条例(昭和47年沖縄県条例第30号)

表15 剰余金処分計算書(案)

(単位:円)

| | 資本金 | 資本剰余金 | 未処分利益剰余金 |
|-------------|----------------|----------------|----------------|
| 当年度末残高 | 28,853,054,791 | 16,008,074,971 | 911,064,390 |
| 議会の議決による処分額 | 0 | 0 | △ 911,064,390 |
| 減債積立金の積立 | 0 | 0 | △ 911,064,390 |
| 処分後残高 | 28,853,054,791 | 16,008,074,971 | (繰越利益剰余金) 0 |

(5) 貸借対照表

ア 財政状態

事業の財政状態は、表16のとおりである。

表16 比較貸借対照表

| 科目 | 区分 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|------------------|----|------------------------|--------------|------------------------|--------------|------------------------|--------------|
| | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 固 定 資 産 | | 413,053,448,080 | 95.4 | 418,259,163,486 | 95.9 | △ 5,205,715,406 | △ 1.2 |
| 有形固定資産 | | 294,283,131,941 | 68.0 | 295,493,213,481 | 67.8 | △ 1,210,081,540 | △ 0.4 |
| 土地 | | 20,109,105,978 | 4.6 | 20,089,307,116 | 4.6 | 19,798,862 | 0.1 |
| 建物 | | 33,824,204,608 | 3.8 | 33,999,076,188 | 4.0 | △ 174,871,580 | △ 0.5 |
| 建物減価償却累計額 | | △ 17,183,393,005 | - | △ 16,764,499,287 | - | △ 418,893,718 | △ 2.5 |
| 構築物 | | 322,656,940,677 | 41.4 | 323,182,350,362 | 42.6 | △ 525,409,685 | △ 0.2 |
| 構築物減価償却累計額 | | △ 143,193,254,767 | - | △ 137,276,273,807 | - | △ 5,916,980,960 | △ 4.3 |
| 機械及び装置 | | 152,956,673,491 | 11.7 | 152,504,354,228 | 11.6 | 452,319,263 | 0.3 |
| 機械及び装置減価償却累計額 | | △ 102,446,297,041 | - | △ 101,845,850,637 | - | △ 600,446,404 | △ 0.6 |
| 車両、運搬具 | | 68,784,482 | 0.0 | 72,362,889 | 0.0 | △ 3,578,407 | △ 4.9 |
| 車両、運搬具減価償却累計額 | | △ 48,810,834 | - | △ 50,247,275 | - | 1,436,441 | 2.9 |
| 船舶 | | 428,400 | 0.0 | 428,400 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 船舶減価償却累計額 | | △ 347,004 | - | △ 269,892 | - | △ 77,112 | △ 28.6 |
| 工具、器具及び備品 | | 1,391,782,389 | 0.1 | 1,412,447,538 | 0.1 | △ 20,665,149 | △ 1.5 |
| 工具、器具及び備品減価償却累計額 | | △ 994,794,496 | - | △ 1,018,863,993 | - | 24,069,497 | 2.4 |
| リース資産 | | 35,380,007 | 0.0 | 39,347,495 | 0.0 | △ 3,967,488 | △ 10.1 |
| リース資産減価償却累計額 | | △ 31,842,008 | - | △ 28,072,246 | - | △ 3,769,762 | △ 13.4 |
| 建設仮勘定 | | 27,138,571,064 | 6.3 | 21,177,616,402 | 4.9 | 5,960,954,662 | 28.1 |
| 無形固定資産 | | 118,470,316,139 | 27.4 | 122,166,472,005 | 28.0 | △ 3,696,155,866 | △ 3.0 |
| 施設利用権 | | 197,182,974 | 0.0 | 224,587,407 | 0.1 | △ 27,404,433 | △ 12.2 |
| ダム利用権 | | 118,087,790,869 | 27.3 | 121,728,066,006 | 27.9 | △ 3,640,275,137 | △ 3.0 |
| 電話加入権 | | 4,665,110 | 0.0 | 4,665,110 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 庁舎利用権 | | 180,677,186 | 0.0 | 209,153,482 | 0.0 | △ 28,476,296 | △ 13.6 |
| 投資その他の資産 | | 300,000,000 | 0.1 | 599,478,000 | 0.1 | △ 299,478,000 | △ 50.0 |
| 投資有価証券 | | 0 | 0.0 | 299,478,000 | 0.1 | △ 299,478,000 | 皆減 |
| その他投資 | | 300,000,000 | 0.1 | 300,000,000 | 0.1 | 0 | 0.0 |
| 流 動 資 産 | | 19,924,788,587 | 4.6 | 17,843,546,685 | 4.1 | 2,081,241,902 | 11.7 |
| 現金・預金 | | 18,043,862,573 | 4.2 | 15,958,217,743 | 3.7 | 2,085,644,830 | 13.1 |
| 未収金 | | 1,462,134,111 | 0.3 | 1,469,751,061 | 0.3 | △ 7,616,950 | △ 0.5 |
| 有価証券 | | 299,478,000 | 0.1 | 299,376,000 | 0.1 | 102,000 | 0.0 |
| 貯蔵品 | | 108,813,309 | 0.0 | 105,629,509 | 0.0 | 3,183,800 | 3.0 |
| 前払費用 | | 188,000 | 0.0 | 188,000 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| その他流動資産 | | 10,312,594 | 0.0 | 10,384,372 | 0.0 | △ 71,778 | △ 0.7 |
| 資 産 合 計 | | 432,978,236,667 | 100.0 | 436,102,710,171 | 100.0 | △ 3,124,473,504 | △ 0.7 |

| 科目 | 区分 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|-------------------------|----|------------------------|-------------|------------------------|-------------|------------------------|--------------|
| | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 固定負債 | | 62,101,310,064 | 14.3 | 63,646,344,491 | 14.6 | △ 1,545,034,427 | △ 2.4 |
| 企業債 | | 57,504,240,947 | 13.3 | 59,085,049,088 | 13.5 | △ 1,580,808,141 | △ 2.7 |
| 建設改良費等の財源に 充てるための企業債 | | 57,504,240,947 | 13.3 | 59,085,049,088 | 13.5 | △ 1,580,808,141 | △ 2.7 |
| リース債務 | | 0 | 0.0 | 3,821,039 | 0.0 | △ 3,821,039 | 皆減 |
| 引当金 | | 4,597,069,117 | 1.1 | 4,557,474,364 | 1.0 | 39,594,753 | 0.9 |
| 退職給付引当金 | | 1,058,582,558 | 0.2 | 954,257,064 | 0.2 | 104,325,494 | 10.9 |
| 修繕引当金 | | 3,538,486,559 | 0.8 | 3,603,217,300 | 0.8 | △ 64,730,741 | △ 1.8 |
| 流動負債 | | 11,176,748,781 | 2.6 | 9,520,562,111 | 2.2 | 1,656,186,670 | 17.4 |
| 企業債 | | 4,016,108,141 | 0.9 | 4,061,831,965 | 0.9 | △ 45,723,824 | △ 1.1 |
| 建設改良費等の財源に 充てるための企業債 | | 4,016,108,141 | 0.9 | 4,061,831,965 | 0.9 | △ 45,723,824 | △ 1.1 |
| リース債務 | | 3,821,039 | 0.0 | 8,356,230 | 0.0 | △ 4,535,191 | △ 54.3 |
| 未払金 | | 6,896,991,128 | 1.6 | 5,185,855,053 | 1.2 | 1,711,136,075 | 33.0 |
| 引当金 | | 147,872,621 | 0.0 | 147,585,626 | 0.0 | 286,995 | 0.2 |
| 賞与引当金 | | 124,228,970 | 0.0 | 124,179,556 | 0.0 | 49,414 | 0.0 |
| 法定福利費引当金 | | 23,643,651 | 0.0 | 23,406,070 | 0.0 | 237,581 | 1.0 |
| その他流動負債 | | 111,955,852 | 0.0 | 116,933,237 | 0.0 | △ 4,977,385 | △ 4.3 |
| 繰延収益 | | 313,530,073,094 | 72.4 | 317,714,338,694 | 72.9 | △ 4,184,265,600 | △ 1.3 |
| 長期前受金 | | 313,530,073,094 | 72.4 | 317,714,338,694 | 72.9 | △ 4,184,265,600 | △ 1.3 |
| 受贈財産評価額 | | 9,139,490,290 | 1.1 | 9,154,779,822 | 1.2 | △ 15,289,532 | △ 0.2 |
| 受贈財産評価額 収益化累計額 | | △ 4,222,895,851 | - | △ 3,958,550,377 | - | △ 264,345,474 | △ 6.7 |
| 工事負担金 | | 10,348,816 | 0.0 | 10,348,816 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 工事負担金額 収益化累計額 | | △ 3,483,413 | - | △ 3,325,076 | - | △ 158,337 | △ 4.8 |
| 国庫補助金 | | 565,793,088,239 | 70.5 | 561,656,540,602 | 70.9 | 4,136,547,637 | 0.7 |
| 国庫補助金額 収益化累計額 | | △ 260,465,323,445 | - | △ 252,257,094,999 | - | △ 8,208,228,446 | △ 3.3 |
| 他会計補助金 | | 7,343,659,344 | 0.7 | 7,008,681,193 | 0.7 | 334,978,151 | 4.8 |
| 他会計補助金額 収益化累計額 | | △ 4,268,346,442 | - | △ 4,109,575,506 | - | △ 158,770,936 | △ 3.9 |
| その他長期前受金 | | 272,230,718 | 0.0 | 271,522,428 | 0.0 | 708,290 | 0.3 |
| その他長期前受金額 収益化累計額 | | △ 68,695,162 | - | △ 58,988,209 | - | △ 9,706,953 | △ 16.5 |
| 負債合計 | | 386,808,131,939 | 89.3 | 390,881,245,296 | 89.6 | △ 4,073,113,357 | △ 1.0 |

| 科目 | 区分 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|-----------------------|----|------------------------|--------------|------------------------|--------------|------------------------|--------------|
| | | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 資 本 金 | | 28,853,054,791 | 6.7 | 28,178,892,182 | 6.5 | 674,162,609 | 2.4 |
| 資 本 金 | | 28,853,054,791 | 6.7 | 28,178,892,182 | 6.5 | 674,162,609 | 2.4 |
| 固 有 資 本 金 | | 9,698,801,471 | 2.2 | 9,698,801,471 | 2.2 | 0 | 0.0 |
| 組 入 資 本 金 | | 19,154,253,320 | 4.4 | 18,480,090,711 | 4.2 | 674,162,609 | 3.6 |
| 剰 余 金 | | 17,317,049,937 | 4.0 | 17,042,572,693 | 3.9 | 274,477,244 | 1.6 |
| 資 本 剰 余 金 | | 16,008,074,971 | 3.7 | 15,970,499,508 | 3.7 | 37,575,463 | 0.2 |
| 受 贈 財 産 評 価 額 | | 216,522,409 | 0.1 | 216,493,363 | 0.0 | 29,046 | 0.0 |
| 工 事 負 担 金 | | 54,345,000 | 0.0 | 54,345,000 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 国 庫 補 助 金 | | 15,393,405,796 | 3.6 | 15,368,323,410 | 3.5 | 25,082,386 | 0.2 |
| 他 会 計 補 助 金 | | 342,144,874 | 0.1 | 329,680,843 | 0.1 | 12,464,031 | 3.8 |
| そ の 他 資 本 剰 余 金 | | 1,656,892 | 0.0 | 1,656,892 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 利 益 剰 余 金 | | 1,308,974,966 | 0.3 | 1,072,073,185 | 0.2 | 236,901,781 | 22.1 |
| 減 債 積 立 金 | | 397,910,576 | 0.1 | 674,162,609 | 0.2 | △ 276,252,033 | △ 41.0 |
| 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金 | | 911,064,390 | 0.2 | 397,910,576 | 0.1 | 513,153,814 | 129.0 |
| 資 本 合 計 | | 46,170,104,728 | 10.7 | 45,221,464,875 | 10.4 | 948,639,853 | 2.1 |
| 負 債 資 本 合 計 | | 432,978,236,667 | 100.0 | 436,102,710,171 | 100.0 | △ 3,124,473,504 | △ 0.7 |

(注) 有形固定資産の構成比は減価償却累計額控除後の比率である。

(注) 長期前受金の構成比は収益化累計額控除後の比率である。

(注) 「構成比」欄は、四捨五入の関係上、内訳の合計と計数が一致しない場合がある。

令和元年度末における資産の合計は4,329億7,823万6,667円で、前年度に比較して31億2,447万3,504円（0.7%）減少している。これは、固定資産が52億571万5,406円（1.2%）減少し、流動資産が20億8,124万1,902円（11.7%）増加したことによるものである。

負債の合計は3,868億813万1,939円で、前年度に比較して40億7,311万3,357円（1.0%）減少している。これは、固定負債が15億4,503万4,427円（2.4%）、繰延収益が41億8,426万5,600円（1.3%）減少し、流動負債が16億5,618万6,670円（17.4%）増加したことによるものである。

資本の合計は461億7,010万4,728円で、前年度に比較して9億4,863万9,853円（2.1%）増加している。これは、資本金が6億7,416万2,609円（2.4%）、剰余金が2億7,447万7,244円（1.6%）それぞれ増加したことによるものである。

各科目の動向は、次のとおりである。

(ア) 固定資産

固定資産は、前年度に比較して52億571万5,406円（1.2%）減少している。

これは、減価償却によるダム使用权等の減により、無形固定資産が36億9,615万5,866円（3.0%）減少したことなどによるものである。

(イ) 流動資産

流動資産は、前年度に比較して20億8,124万1,902円（11.7%）増加している。

これは、現金・預金が20億8,564万4,830円（13.1%）増加したことによるものである。

(ウ) 固定負債

固定負債は、前年度に比較して15億4,503万4,427円（2.4%）減少している。

これは、主に企業債が15億8,080万8,141円（2.7%）減少したことによるものである。

(エ) 流動負債

流動負債は、前年度に比較して16億5,618万6,670円（17.4%）増加している。

これは、主に建設改良費の未払金計上額の増により、未払金が17億1,113万6,075円（33.0%）増加したことによるものである。

(オ) 繰延収益

繰延収益は、前年度に比較して41億8,426万5,600円（1.3%）減少している。

これは、減価償却等により、長期前受金が同額減少したことによるものである。

(カ) 資本金

資本金は、前年度に比較して6億7,416万2,609円（2.4%）増加している。

これは、減債積立金からの組入によるものである。

(キ) 剰余金

剰余金は、前年度に比較して2億7,447万7,244円（1.6%）増加している。

これは、主に当年度未処分利益剰余金が5億1,315万3,814円（129.0%）増加したことによるものである。

イ 主な経営分析指標

令和元年度末の財政状態を示す主な経営分析指標は、表17のとおりである。

(ア) 自己資本構成比率

総資本に占める自己資本の割合を表すもので、比率が大きいほど自己資本が投下されていることを示すものであり、当年度は83.1%で前年度と比較して0.1ポイント減少した。

これは、負債資本の合計が0.7%減少し、資本金、剰余金及び繰延収益の合計がそれを上回る0.9%減少したことによるものである。

全国平均（平成30年度）の76.2%に比較して6.9ポイント高い状況にある。

(イ) 固定資産対長期資本比率

固定資産が長期資本によって賄われている度合いを示す比率で、100%以下を理想とし100%を超えれば過大投資であると言える。

当年度は97.9%で前年度と比較して0.1ポイント下回っている。

これは、長期資本が1.1%減少し、固定資産がそれを上回る1.2%減少したことによるものである。

全国平均の93.1%に比較して4.8ポイント高い状況にある。

(ウ) 流動比率

流動負債に対する流動資産の割合を表すもので、比率が大きいほど良好であり、当年度は178.3%で前年度と比較して9.1ポイント下回っている。

これは、流動資産が11.7%増加したものの、流動負債がそれを上回る17.4%増加したことによるものである。

全国平均の324.2%に比較して145.9ポイント低い状況にある。

表17 経営分析指標

| 区分 | 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 前年度 比較 | H30年度 全国平均 |
|---------------------|----|--------|--------|-------|-----------|---------------|
| 自己資本 構成比率 (%) | | 82.8 | 83.2 | 83.1 | △ 0.1 | 76.2 |
| 固定資産対 長期資本比率 (%) | | 98.1 | 98.0 | 97.9 | △ 0.1 | 93.1 |
| 流動比率 (%) | | 179.3 | 187.4 | 178.3 | △ 9.1 | 324.2 |

(注) 1 自己資本構成比率 (%) = $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$

2 固定資産対長期資本比率 (%) = $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

3 流動比率 (%) = $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$

3 キャッシュ・フローの状況について

令和元年度のキャッシュ・フローの状況は、表18のとおりである。

当年度は、業務活動によるキャッシュ・フローが47億3,769万2,760円の増、投資活動によるキャッシュ・フローが10億2,551万5,965円の減、財務活動によるキャッシュ・フローが16億2,653万1,965円の減となり、差引き20億8,564万4,830円の資金増となり、資金期首残高159億5,821万7,743円を加えた180億4,386万2,573円が資金期末残高となっている。

この残高の内訳は、普通預金が1,196万2,573円、定期預金57億1,000万円、外貨預金123億2,190万円であり、取扱金融機関の残高証明書と一致している。

なお、水道事業会計の資金は、「沖縄県企業局資金運用要領」に基づき運用されており、今年度の運用収入は699万726円で、前年度に比較して210万7,182円（23.2%）減少している。

また、年度中途における一時的な資金不足を補うため、令和元年度予算で一時借入金の限度額90億円を定めているが、借入れは行われていない。

表18 キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

| | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 業務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 当年度純利益 | 911,064,390 |
| 減価償却費 | 15,532,344,748 |
| 資産減耗費 | 746,613,286 |
| 固定資産売却益 | △ 113,172 |
| 修繕引当金の増減額（△は減少） | △ 64,730,741 |
| 退職給付引当金の増減額（△は減少） | 104,325,494 |
| 賞与引当金の増減額（△は減少） | 9,629 |
| 法定福利費引当金の増減額（△は減少） | 214,636 |
| 長期前受金戻入額 | △ 12,728,372,537 |
| 受取利息及び配当金 | △ 6,990,726 |
| 支払利息 | 1,097,160,645 |
| 未収金の増減額（△は増加） | △ 8,609,097 |
| 未払金の増減額（△は減少） | 253,035,531 |
| たな卸資産の増減額（△は減少） | △ 3,183,800 |
| 預り金等の増減額（△は減少） | △ 4,905,607 |
| 小計 | 5,827,862,679 |
| 利息及び配当金の受取額 | 6,990,726 |
| 利息の支払額 | △ 1,097,160,645 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 4,737,692,760 |
| 2 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △ 10,608,274,097 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 11,719,232 |
| 有形固定資産の撤去による支出 | △ 25,368,000 |
| 国庫補助金による収入 | 8,939,553,000 |
| 一般会計からの繰入金による収入 | 385,974,900 |
| 投資（有価証券）の償還による収入 | 299,376,000 |
| 国庫補助金の返還による支出 | △ 28,497,000 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,025,515,965 |
| 3 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債の借入による収入 | 2,435,300,000 |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 | △ 4,061,831,965 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,626,531,965 |
| 資金増加額（又は減少額） | 2,085,644,830 |
| 資金期首残高 | 15,958,217,743 |
| 資金期末残高 | 18,043,862,573 |

別 表

別表

経営分析指標

| 区分 | 算式 | 令和元年度計算内訳 | | | 比率 | | | 平成30年度 全国平均 |
|--|-----------------------------|---|---|-----------|-----------|--------|-----------|----------------|
| | | 令和元年度 | 平成30年度 | 増△減 | 令和元年度 | 平成30年度 | 増△減 | |
| 資産 及 び 資 本 構 成 比 率 | (1) 固定資産 構成比率(%) | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資産合計}} \times 100$ | 固定資産 413,053,448,080 資産合計 432,978,236,667 | 95.4 | 95.9 | △ 0.5 | 90.3 | |
| | (2) 固定負債 構成比率(%) | $\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$ | 固定負債 62,101,310,064 負債資本合計 432,978,236,667 | 14.3 | 14.6 | △ 0.3 | 20.8 | |
| | (3) 自己資本 構成比率(%) | $\frac{\text{資本金+剰余金+繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$ | 資本金 28,853,054,791 剰余金 17,317,049,937 繰延収益 313,530,073,094 負債資本合計 432,978,236,667 | 83.1 | 83.2 | △ 0.1 | 76.2 | |
| | (4) 固定資産対長 期資本比率(%) | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+固定負債+繰延収益}} \times 100$ | 固定資産 413,053,448,080 資本金 28,853,054,791 剰余金 17,317,049,937 固定負債 62,101,310,064 繰延収益 313,530,073,094 | 97.9 | 98.0 | △ 0.1 | 93.1 | |
| | (5) 固定比率(%) | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+繰延収益}} \times 100$ | 固定資産 413,053,448,080 資本金 28,853,054,791 剰余金 17,317,049,937 繰延収益 313,530,073,094 | 114.8 | 115.2 | △ 0.4 | 118.5 | |
| | (6) 流動比率(%) | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 流動資産 19,924,788,587 流動負債 11,176,748,781 | 178.3 | 187.4 | △ 9.1 | 324.2 | |
| | (7) 酸性試験比率(%) | $\frac{\text{現金預金+未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 現金預金 18,043,862,573 未収金 1,462,134,111 流動負債 11,176,748,781 | 174.5 | 183.1 | △ 8.6 | 320.9 | |
| | (8) 現金比率(%) | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 現金預金 18,043,862,573 流動負債 11,176,748,781 | 161.4 | 167.6 | △ 6.2 | 301.3 | |
| 回 転 率 | (1) 自己資本回転率 (回) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{(期末自己資本+期首自己資本)} \div 2}$ | 営業収益 15,729,137,150 受託工事収益 0 期末自己資本 359,700,177,822 期首自己資本 362,935,803,569 | 0.04 | 0.04 | 0.00 | 0.12 | |
| | (2) 固定資産回転率 (回) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{(期末固定資産+期首固定資産)} \div 2}$ | 営業収益 15,729,137,150 受託工事収益 0 期末固定資産 413,053,448,080 期首固定資産 418,259,163,486 | 0.04 | 0.04 | 0.00 | 0.07 | |
| | (3) 減価償却率(%) | $\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{有形固定資産+無形固定資産-土地-建設仮勘定+当年度減価償却費}} \times 100$ | 当年度減価償却費 15,532,344,748 有形固定資産 294,283,131,941 無形固定資産 118,470,316,139 土地 20,109,105,978 建設仮勘定 27,138,571,064 | 4.08 | 3.94 | 0.14 | 4.12 | |
| | (4) 流動資産回転率 (回) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{(期末流動資産+期首流動資産)} \div 2}$ | 営業収益 15,729,137,150 受託工事収益 0 期末流動資産 19,924,788,587 期首流動資産 17,843,546,685 | 0.83 | 0.85 | △ 0.02 | 0.61 | |
| | (5) 現金預金回転率 (回) | $\frac{\text{当年度支出額}}{\text{(期末現金預金+期首現金預金)} \div 2}$ | 当年度支出額 27,464,291,593 期末現金預金 18,043,862,573 期首現金預金 15,958,217,743 | 1.62 | 1.76 | △ 0.14 | — | |
| | (6) 貯蔵品回転率 (回) | $\frac{\text{期首貯蔵品+購入貯蔵品+発生貯蔵品-期末貯蔵品}}{\text{(期末貯蔵品+期首貯蔵品)} \div 2}$ | 期首貯蔵品 105,629,509 購入貯蔵品 3,730,000 発生貯蔵品 546,200 期末貯蔵品 108,813,309 | 0.01 | 0.05 | △ 0.04 | — | |
| | (7) 未収金回転率 (回) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{(期首未収金+期末未収金)} \div 2}$ | 営業収益 15,729,137,150 受託工事収益 0 期末未収金 1,462,134,111 期首未収金 1,469,751,061 | 10.73 | 10.70 | 0.03 | 10.35 | |
| 損 益 に 関 す る 各 種 比 率 | (1) 総資本利益率(%) | $\frac{\text{当年度経常収支}}{\text{(期末総資本+期首総資本)} \div 2} \times 100$ | 当年度経常収支 838,249,937 期末総資本 432,978,236,667 期首総資本 436,102,710,171 | 0.19 | 0.08 | 0.11 | — | |
| | (2) 総収益対 総費用比率(%) | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 総収益 28,690,716,208 総費用 27,779,651,818 | 103.3 | 101.4 | 1.9 | 113.2 | |
| | (3) 営業収益対 営業費用比率(%) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{営業費用-受託工事費用}} \times 100$ | 営業収益 15,729,137,150 受託工事収益 0 営業費用 26,647,135,640 受託工事費用 0 | 59.0 | 58.0 | 1.0 | 105.0 | |
| | (4) 利子負担率(%) | $\frac{\text{支払利息+企業債取扱諸費}}{\text{企業債+他会計借入金+一時借入金+リース債務}} \times 100$ | 支払利息 1,097,160,645 企業債取扱諸費 0 企業債 61,520,349,088 他会計借入金 0 一時借入金 0 リース債務 3,821,039 | 1.8 | 1.9 | △ 0.1 | 2.2 | |
| | (5) 企業債償還額対 減価償却費比率(%) | $\frac{\text{企業債償還額}}{\text{当年度減価償却費-長期前受金戻入}} \times 100$ | 企業債償還額 4,061,831,965 長期前受金戻入 12,728,372,537 当年度減価償却費 15,532,344,748 | 144.9 | 157.9 | △ 13.0 | 65.2 | |
| | (6) 職員一人当たり 営業収益(千円) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$ | 営業収益 15,729,137,150 受託工事収益 0 損益勘定所属職員数 186 | 84,565 | 83,295 | 1,270 | 125,934 | |
| | (7) 職員一人当たり 有形固定資産(千円) | $\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数+資本勘定所属職員数}}$ | 期末有形固定資産 294,283,131,941 損益勘定所属職員数 186 資本勘定所属職員数 37 | 1,319,655 | 1,313,303 | 6,352 | 1,148,267 | |
| | (8) 企業債償還額対 料金収入比率(%) | $\frac{\text{企業債償還額}}{\text{料金収入}} \times 100$ | 企業債償還額 4,061,831,965 料金収入 15,668,469,491 | 25.9 | 27.2 | △ 1.3 | 25.0 | |
| | (9) 企業債利息対 料金収入比率(%) | $\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$ | 企業債利息 1,097,160,645 料金収入 15,668,469,491 | 7.0 | 7.8 | △ 0.8 | 6.4 | |
| | (10) 企業債元利償還 額対料金収入比率(%) | $\frac{\text{企業債元利償還額}}{\text{料金収入}} \times 100$ | 企業債元利償還額 5,158,992,610 料金収入 15,668,469,491 | 32.9 | 35.0 | △ 2.1 | 31.4 | |
| | (11) 職員給与費対 料金収入比率(%) | $\frac{\text{職員給与費}}{\text{料金収入}} \times 100$ | 職員給与費 1,796,188,997 料金収入 15,668,469,491 | 11.5 | 11.8 | △ 0.3 | 7.3 | |

沖縄県工業用水道事業会計

1 事業の概要について

(1) 給水対象及び給水量等

工業用水道事業では、沖縄県公営企業の設置等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第30号）第3条第3項の規定により、名護市、宜野座村、金武町、うるま市、沖縄市、北中城村、中城村、西原町、南風原町、与那原町、南城市、八重瀬町及び糸満市の13市町村の企業・組合に工業用水の供給を行っている。

令和元年度の実配水量は602万816m³で、前年度に比較して17万7,335m³（3.0%）増加している。

令和元年度の給水事業所は107事業所で、前年度に比較して3事業所の増加となっている。

なお、配水能力等の状況は表19のとおりである。

表19 配水能力等の状況

| 区分 年度 | 配水能力 (A) m ³ /日 | 年間基本 使用水量 (B) m ³ | 実配水量 (C) m ³ | 1日最大 配水量 (D) m ³ | 1日平均 配水量 (E) m ³ | 負荷率 (E/D) % | 施設 利用率 (E/A) % |
|----------|----------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|-------------------|-------------------------|
| 平成29年度 | 30,000 | 7,525,371 | 6,155,819 | 22,700 | 16,865 | 74.30 | 56.22 |
| 平成30年度 | 30,000 | 7,319,491 | 5,843,481 | 23,800 | 16,010 | 67.27 | 53.37 |
| 令和元年度 | 30,000 | 7,729,302 | 6,020,816 | 23,800 | 16,450 | 69.12 | 54.83 |
| 前年度比較 | 0 | 409,811 | 177,335 | 0 | 440 | 1.85 | 1.46 |

(注) 1 負荷率 = $\frac{1日平均配水量}{1日最大配水量} \times 100$

2 施設利用率 = $\frac{1日平均配水量}{配水能力} \times 100$

(2) 職員数

令和2年3月31日現在の職員数は4人で、前年度と同数である。

職員の区分別内訳は、事務職員1人、技術職員3人となっている。

(3) 建設工事等

令和元年度は、東系列導水路トンネル改築工事及び配水管布設工事を実施した。

2 決算諸表の概要について

(1) 決算報告書

予算額に対する決算額及び内容は、次のとおりである。

ア 収益的収入及び支出

収益的収入は、予算額 6 億6,718万1,000円に対し、決算額が 6 億6,912万2,093円で、収入率は100.3%（前年度99.0%）である。

これは、主に営業外収益が202万1,704円増加したことによるものである。

収益的支出は、予算額 6 億6,332万5,195円に対し、決算額が 6 億2,692万8,013円で、執行率は94.5%（前年度95.9%）となっている。

不用額は2,936万6,976円で、不用額が生じた理由は、ダム維持管理負担金の過年度精算に伴い負担金が減になったこと等によるものである。

表20 収益的収入の状況

| 科 目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 予算額に比べ 決算額の増減 | 収入率 (B) / (A) |
|---------------|-------------|-----------------------------|------------------|------------------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 第1款 工業用水道事業収益 | 667,181,000 | 669,122,093 (25,760,810) | 1,941,093 | 100.3 |
| 第1項 営業収益 | 317,870,000 | 317,783,707 (25,760,507) | △ 86,293 | 100.0 |
| 第2項 営業外収益 | 349,310,000 | 351,331,704 (303) | 2,021,704 | 100.6 |
| 第3項 特別利益 | 1,000 | 6,682 | 5,682 | 668.2 |

(注) 決算額の下段 () 書きは、仮受消費税及び地方消費税で内数である。

表21 収益的支出の状況

| 科 目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 翌年度 繰越額 | 不用額 | 執行率 (B) / (A) |
|---------------|-------------|-----------------------------|------------|------------|------------------|
| | 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 第1款 工業用水道事業費用 | 663,325,195 | 626,928,013 (21,942,871) | 7,030,206 | 29,366,976 | 94.5 |
| 第1項 営業費用 | 646,218,195 | 610,323,085 (21,942,871) | 7,030,206 | 28,864,904 | 94.4 |
| 第2項 営業外費用 | 16,605,000 | 16,603,966 | 0 | 1,034 | 100.0 |
| 第3項 特別損失 | 2,000 | 962 (0) | 0 | 1,038 | 48.1 |
| 第4項 予備費 | 500,000 | 0 | 0 | 500,000 | 0.0 |

(注) 決算額の下段 () 書きは、仮払消費税及び地方消費税で内数である。

イ 資本的収入及び支出

資本的収入は、予算額 1 億 2,266 万 8,000 円に対し、決算額が 1 億 5,086 万 664 円で、収入率は 123.0%（前年度 68.7%）となっている。

資本的支出は、予算額 1 億 5,389 万 4,052 円に対し、決算額が 1 億 3,515 万 5,265 円で、執行率は 87.8%（前年度 84.8%）となっている。

不用額は 812 万 4,896 円で、不用額が生じた主な理由は、工事請負費及び委託料の執行残によるものである。

資本的収入額（投資償還金 4,989 万 6,000 円を除く）が資本的支出額に不足する額 3,419 万 601 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 316 万 2,724 円、減債積立金 3,035 万 8,050 円、建設改良積立金 66 万 9,827 円で補填している。

表22 資本的収入及び支出の状況

| 科目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 予算額に比べ 決算額の増減 | | 収入率 (B)/(A) |
|--------------|-------------|----------------------------|------------------|-----------|----------------|
| | 円 | 円 | 円 | | % |
| 第1款 資本的収入 | 122,668,000 | 150,860,664 | 28,192,664 | | 123.0 |
| 第1項 国庫補助金 | 60,354,000 | 88,540,698 | 28,186,698 | | 146.7 |
| 第2項 他会計補助金 | 12,418,000 | 12,418,000 | 0 | | 100.0 |
| 第3項 固定資産売却代金 | 0 | 5,966 | 5,966 | | 皆増 |
| 第4項 投資償還金 | 49,896,000 | 49,896,000 | 0 | | 100.0 |
| 科目 | 予算額 (A) | 決算額 (B) | 翌年度 繰越額 | 不用額 | 執行率 (B)/(A) |
| | 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 第1款 資本的支出 | 153,894,052 | 135,155,265 (7,512,973) | 10,613,891 | 8,124,896 | 87.8 |
| 第1項 建設改良費 | 111,116,052 | 92,379,215 (7,512,973) | 10,613,891 | 8,122,946 | 83.1 |
| 第2項 企業債償還金 | 42,777,000 | 42,776,050 | 0 | 950 | 100.0 |
| 第3項 国庫補助金返還金 | 1,000 | 0 | 0 | 1,000 | 0.0 |

(注) 決算額の下段 () 書きは、仮払消費税及び地方消費税で内数である。

表23 資本的収支不足額に対する補填財源

(単位：円)

| | |
|----------------------------------|--------------|
| 資本的収入（決算額）A（投資償還金49,896,000円を除く） | 100,964,664 |
| 資本的支出（決算額）B | 135,155,265 |
| 収支不足額 C = A - B | △ 34,190,601 |
| 補填財源 D = E + F + G | 34,190,601 |
| 当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 E | 3,162,724 |
| 減債積立金 F | 30,358,050 |
| 建設改良積立金 G | 669,827 |

(2) 損益計算書

ア 経営成績

事業の経営成績は、表24のとおりである。

表24 比較損益計算書

| 区 分 科 目 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|-------------|---------------|-------|---------------|-------|--------------|--------|
| | 金額 (A) | 構成比 | 金額 (B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業収益 | 292,023,200 | 45.4 | 275,998,555 | 43.0 | 16,024,645 | 5.8 |
| 給水収益 | 292,023,200 | 45.4 | 275,998,555 | 43.0 | 16,024,645 | 5.8 |
| 営業費用 | 588,380,214 | 97.3 | 612,040,205 | 98.0 | △ 23,659,991 | △ 3.9 |
| 原水及び浄水費 | 177,373,805 | 29.3 | 178,024,963 | 28.5 | △ 651,158 | △ 0.4 |
| 配水及び給水費 | 35,843,672 | 5.9 | 49,305,851 | 7.9 | △ 13,462,179 | △ 27.3 |
| 総係費 | 33,821,112 | 5.6 | 28,707,361 | 4.6 | 5,113,751 | 17.8 |
| 減価償却費 | 340,743,442 | 56.4 | 355,640,825 | 56.9 | △ 14,897,383 | △ 4.2 |
| 資産減耗費 | 598,183 | 0.1 | 361,205 | 0.1 | 236,978 | 65.6 |
| 営業利益(△損失) | △ 296,357,014 | - | △ 336,041,650 | - | 39,684,636 | 11.8 |
| 営業外収益 | 351,474,146 | 54.6 | 365,765,822 | 57.0 | △ 14,291,676 | △ 3.9 |
| 受取利息及び配当金 | 649,327 | 0.1 | 1,107,727 | 0.2 | △ 458,400 | △ 41.4 |
| 他会計補助金 | 53,728,000 | 8.3 | 55,890,000 | 8.7 | △ 2,162,000 | △ 3.9 |
| 長期前受金戻入 | 296,572,467 | 46.1 | 308,334,501 | 48.0 | △ 11,762,034 | △ 3.8 |
| 雑収益 | 524,352 | 0.1 | 433,594 | 0.1 | 90,758 | 20.9 |
| 営業外費用 | 16,091,496 | 2.7 | 12,642,361 | 2.0 | 3,449,135 | 27.3 |
| 支払利息 | 8,092,066 | 1.3 | 9,110,256 | 1.5 | △ 1,018,190 | △ 11.2 |
| 雑支出 | 7,999,430 | 1.3 | 3,532,105 | 0.6 | 4,467,325 | 126.5 |
| 経常利益 | 39,025,636 | - | 17,081,811 | - | 21,943,825 | 128.5 |
| 特別利益 | 6,682 | 0.0 | 0 | 0.0 | 6,682 | 皆増 |
| 固定資産売却益 | 6,681 | 0.0 | 0 | 0.0 | 6,681 | 皆増 |
| その他特別利益 | 1 | 0.0 | 0 | 0.0 | 1 | 皆増 |
| 特別損失 | 962 | 0.0 | 13,126 | 0.0 | △ 12,164 | △ 92.7 |
| 過年度損益修正損 | 962 | 0.0 | 13,126 | 0.0 | △ 12,164 | △ 92.7 |
| 工業用水道事業収益 | 643,504,028 | 100.0 | 641,764,377 | 100.0 | 1,739,651 | 0.3 |
| 工業用水道事業費用 | 604,472,672 | 100.0 | 624,695,692 | 100.0 | △ 20,223,020 | △ 3.2 |
| 当年度純利益 | 39,031,356 | - | 17,068,685 | - | 21,962,671 | 128.7 |
| 前年度繰越利益剰余金 | 0 | - | 0 | - | 0 | - |
| 当年度未処分利益剰余金 | 39,031,356 | - | 17,068,685 | - | 21,962,671 | 128.7 |

(注)1「構成比」欄は、四捨五入の関係上、内訳の合計と計数が一致しない場合がある。

2「工業用水道事業収益」＝「営業収益」＋「営業外収益」＋「特別利益」

3「工業用水道事業費用」＝「営業費用」＋「営業外費用」＋「特別損失」

令和元年度の経営成績は、工業用水道事業収益 6 億4,350万4,028円に対し、工業用水道事業費用 6 億447万2,672円で、差引き3,903万1,356円の純利益となっている。

これを科目別にみると、営業収益 2 億9,202万3,200円に対し、営業費用は 5 億8,838万214円で、差引き 2 億9,635万7,014円の営業損失となっている。

営業外収益 3 億5,147万4,146円に対して、営業外費用は1,609万1,496円で、差引き 3 億3,538万2,650円の利益となり、これに営業損失を合計した経常利益は3,902万5,636円となっている。

特別利益6,682円に対して、特別損失は962円で差し引き5,720円の利益となっている。これに経常利益を合計した額3,903万1,356円が当年度の純利益となり、前年度の純利益 1,706万8,685円に比較して、2,196万2,671円（128.7%）増加している。

各科目の動向は次のとおりである。

(ア) 営業収益

営業収益は、前年度に比較して1,602万4,645円（5.8%）増加している。

これは、契約水量の増により、給水収益が前年度に比較して1,602万4,645円（5.8%）増加したことによるものである。

(イ) 営業費用

営業費用は、前年度に比較して2,365万9,991円（3.9%）減少している。

これは、交付金の増等により総係費が増加したものの、久志浄水場機械設備の耐用年数経過により減価償却費が1,489万7,383円（4.2%）が減少したことや、修繕費等の減により配水及び給水費が減少したことなどによるものである。

(ウ) 営業外収益

営業外収益は、前年度に比較して1,429万1,676円（3.9%）減少している。

これは、主に減価償却の減に伴う長期前受金収益化額の減により長期前受金戻入が1,176万2,034円（3.8%）減少したことによるものである。

(エ) 営業外費用

営業外費用は、前年度に比較して344万9,135円（27.3%）増加している。

これは、雑支出が前年度に比較して446万7,325円（126.5%）増加したことによるものである。

イ 一般会計からの繰入金

収益的収入として一般会計から繰り入れた額は5,372万8,000円で、前年度の5,589万円に比較して216万2,000円（3.9%）減少している。

繰入額が収益的収入総額に占める割合は8.3%で、前年度（8.7%）に比較して0.4ポイント下回っている。

表25 一般会計からの繰入状況

| 区分 \ 年度 | | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 前年度比較 | 増減率 |
|---------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------|
| 収益的収入 | 繰入額(円) | 59,308,000 | 55,890,000 | 53,728,000 | △ 2,162,000 | △ 3.9 |
| | 繰入率(%) | 8.8 | 8.7 | 8.3 | △ 0.4 | - |
| | 収益的収入総額(円) | 670,924,751 | 641,764,377 | 643,504,028 | 1,739,651 | 0.3 |
| 資本的収入 | 繰入額(円) | 16,092,000 | 13,144,000 | 12,418,000 | △ 726,000 | △ 5.5 |
| | 繰入率(%) | 16.3 | 10.9 | 8.2 | △ 2.6 | - |
| | 資本的収入総額(円) | 98,704,800 | 121,045,000 | 150,860,664 | 29,815,664 | 24.6 |

(注) 繰入率 = $\frac{\text{繰入額}}{\text{収入総額}}$

ウ 主な経営分析指標

令和元年度の経営成績を示す主な経営分析指標は、表26のとおりである。

(7) 総収益対総費用比率（総収支比率）

総費用に対する総収益の割合を表すもので、比率が高いほど良好な経営状況を示し、当年度は106.5%で前年度に比較して3.8ポイント上回っている。

これは、総収益が0.3%増加し、総費用が3.2%減少したことによるものである。

全国平均(平成30年度)の116.6%に比較すると10.1ポイント低い状況である。

(イ) 営業収益対営業費用比率（営業収支比率）

営業費用に対する営業収益の割合を表すもので、比率が高いほど良好な経営状況を示し、当年度は49.6%で前年度に比較して4.5ポイント上回っている。

これは、営業収益が5.8%増加し、営業費用が3.9%減少したことによるものである。

全国平均の106.7%に比較すると57.1ポイント低い状況である。

(ウ) 企業債償還額対減価償却費比率

企業債償還額の「減価償却費から長期前受金戻入を差し引いた額」に対する割合を表すもので、当年度は96.8%で前年度の96.2%と比較して0.6ポイント上回っている。

これは企業債償還額が6.0%減少したものの、減価償却費から長期前受金戻入を差し引いた額がそれを上回る6.6%減少したことによるものである。

全国平均の66.7%に比較すると30.1ポイント高い状況である。

(エ) 職員1人当たり営業収益

労働生産性を示す一つの指標で、当年度は9,734万1千円で前年度に比較して534万1千円(5.8%)増加している。

これは、前年度と比較して、職員数の増減がなく、営業収益が1,602万4,645円(5.8%)増加したことによるものである。

全国平均の8,818万8千円に比較すると915万3千円高い状況である。

(オ) 職員1人当たり有形固定資産

有形固定資産の職員数に対する割合を示すもので、当年度は6億9,640万1千円で前年度に比較して1,887万2千円(2.6%)減少している。

これは前年度と比較して、職員数の増減がなく、有形固定資産が2.6%減少したことによるものである。

全国平均の8億2,098万6千円に比較すると1億2,458万5千円低い状況である。

表26 経営分析指標

| 区分 | 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 前年度比較 | H30年度全国平均 |
|-------------------|----|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 総収益対総費用比率(%) | | 105.5 | 102.7 | 106.5 | 3.8 | 116.6 |
| 営業収益対営業費用比率(%) | | 45.6 | 45.1 | 49.6 | 4.5 | 106.7 |
| 企業債償還額対減価償却費比率(%) | | 113.6 | 96.2 | 96.8 | 0.6 | 66.7 |
| 職員1人当たり営業収益(千円) | | 94,650 | 92,000 | 97,341 | 5,341 | 88,188 |
| 職員1人当たり有形固定資産(千円) | | 746,360 | 715,273 | 696,401 | △18,872 | 820,986 |

(注) 1 総収益対総費用比率(%) = $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$

2 営業収益対営業費用比率(%) = $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$

3 企業債償還額対減価償却費比率(%) = $\frac{\text{企業債償還額}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$

4 職員1人当たり営業収益(千円) = $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$

5 職員1人当たり有形固定資産(千円) = $\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数} + \text{資本勘定所属職員数}}$

エ 1 m³当たりの供給単価及び給水原価

令和元年度の供給単価は48.50円で、前年度の47.23円に比較して1.27円（2.7%）上回っている。

給水原価は51.14円で、前年度の54.14円に比較して3.00円（5.5%）下回っている。全国平均に比較すると、供給単価、給水原価共に高い状況である。

表27 供給単価及び給水原価

| 区分 | 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 前年度較 | H30年度 全国平均 |
|-----------------------------------|----|--------|--------|--------|--------|---------------|
| 供給単価 (円 / m ³) (A) | | 46.13 | 47.23 | 48.50 | 1.27 | 26.58 |
| 給水原価 (円 / m ³) (B) | | 50.36 | 54.14 | 51.14 | △ 3.00 | 23.79 |
| 差引 (A) - (B) | | △ 4.23 | △ 6.91 | △ 2.64 | 4.27 | 2.79 |

(注) 1 供給単価 = $\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$

2 給水原価 = $\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料売却原価} + \text{不用品売却原価} + \text{附帯事業費用} + \text{長期前受金戻入})}{\text{年間総有収水量}}$

(3) 剰余金計算書

剰余金計算書については、表28のとおりである。各項目については次のとおりである。

ア 資本金

資本金の当年度末残高は、前年度末残高 5 億8,742万6,051円に、減債積立金からの組入額3,035万8,050円、建設改良積立金からの組入額66万9,827円を加え、6 億1,845万3,928円となっている。

イ 資本剰余金

資本剰余金の当年度末残高は、前年度末残高 4 億999万2,468円と同額となっている。

ウ 利益剰余金

利益剰余金の当年度末残高は、前年度末残高 4 億2,030万1,200円に減債積立金及び建設改良積立金組入額の合計3,102万7,877円を減じ、当年度未処分利益剰余金3,903万1,356円を加え、4 億2,830万4,679円となっている。

エ 資本合計

資本合計の当年度末残高は、前年度末残高14億1,771万9,719円に資本金、資本剰余金及び利益剰余金の当年度変動額の合計3,903万1,356円を加え、14億5,675万1,075円となっている。

当年度変動額の要因は、未処分利益剰余金が3,903万1,356円生じたことである。

(4) 剰余金処分計算書

剰余金処分計算書については、表29のとおりである。

当年度未処分利益剰余金3,903万1,356円の全額を建設改良積立金に、県議会の議決を経て積み立てることとしている。

表28 剰余金計算書

(単位:円)

| | 資本金 | 剰余金 | | | | | | | | 資本合計 |
|--------------|------------------|-----------|------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-----------------------------|--------------|---------------|
| | | 資本剰余金 | | | | 利益剰余金 | | | | |
| | | 工事負担金 | 国庫補助金 | 他会計補助金 | 資本剰余金合計 | 減債積立金 | 建設改良積立金 | 未処分利益剰余金 | 利益剰余金合計 | |
| 前年度末残高 | 587,426,051 | 1,551,026 | 87,297,576 | 321,143,866 | 409,992,468 | 273,195,368 | 130,037,147 | 17,068,685 | 420,301,200 | 1,417,719,719 |
| 前年度処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17,068,685 | △ 17,068,685 | 0 | 0 |
| 議会の議決による処分額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17,068,685 | △ 17,068,685 | 0 | 0 |
| 減債積立金の積立 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設改良積立金の積立 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17,068,685 | △ 17,068,685 | 0 | 0 |
| 処分後残高 | 587,426,051 | 1,551,026 | 87,297,576 | 321,143,866 | 409,992,468 | 273,195,368 | 147,105,832 | (繰越利益剰余金) 0 | 420,301,200 | 1,417,719,719 |
| 当年度変動額 | 31,027,877 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 30,358,050 | △ 669,827 | 39,031,356 | 8,003,479 | 39,031,356 |
| 条例第5条による組入額※ | 31,027,877 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 30,358,050 | △ 669,827 | 0 | △ 31,027,877 | 0 |
| 減債積立金からの組入 | 30,358,050 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 30,358,050 | 0 | 0 | △ 30,358,050 | 0 |
| 建設改良積立金の組入 | 669,827 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 669,827 | 0 | △ 669,827 | 0 |
| 国庫補助金の受入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 他会計補助金の受入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当年度純利益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 39,031,356 | 39,031,356 | 39,031,356 |
| 当年度末残高 | 0 618,453,928 | 1,551,026 | 87,297,576 | 321,143,866 | 409,992,468 | 242,837,318 | 146,436,005 | (当年度未処分利益剰余金) 39,031,356 | 428,304,679 | 1,456,751,075 |

※沖縄県公営企業の設置等に関する条例(昭和47年沖縄県条例第30号)

表29 剰余金処分計算書(案)

| | 資本金 | 資本剰余金 | 未処分利益剰余金 |
|-------------|-------------|-------------|----------------|
| 当年度末残高 | 618,453,928 | 409,992,468 | 39,031,356 |
| 議会の議決による処分額 | 0 | 0 | △ 39,031,356 |
| 建設改良積立金の積立 | 0 | 0 | △ 39,031,356 |
| 処分後残高 | 618,453,928 | 409,992,468 | (繰越利益剰余金) 0 |

(5) 貸借対照表

ア 財政状態

事業の財政状態は、表30のとおりである。

表30 比較貸借対照表

| 区 分 科 目 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|----------------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|
| | 金額 (A) | 構成比 | 金額 (B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 固 定 資 産 | 5,621,523,855 | 85.7 | 5,928,083,212 | 87.6 | △ 306,559,357 | △ 5.2 |
| 有 形 固 定 資 産 | 2,785,603,520 | 42.5 | 2,861,092,710 | 42.3 | △ 75,489,190 | △ 2.6 |
| 土 地 | 118,352,118 | 1.8 | 118,358,084 | 1.7 | △ 5,966 | 0.0 |
| 建 物 | 200,014,466 | 1.0 | 202,933,518 | 1.0 | △ 2,919,052 | △ 1.4 |
| 建物減価償却累計額 | △ 135,039,102 | - | △ 133,584,905 | - | △ 1,454,197 | 1.1 |
| 構 築 物 | 6,526,396,729 | 33.2 | 6,463,015,532 | 32.8 | 63,381,197 | 1.0 |
| 構築物減価償却累計額 | △ 4,349,012,146 | - | △ 4,244,824,392 | - | △ 104,187,754 | 2.5 |
| 機 械 及 び 装 置 | 1,563,064,735 | 42.5 | 1,562,189,137 | 5.7 | 875,598 | 0.1 |
| 機械及び装置 減価償却累計額 | △ 1,221,724,479 | - | △ 1,175,709,516 | - | △ 46,014,963 | 3.9 |
| 車 両 、 運 搬 具 | 80,185 | 0.0 | 80,185 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 車両、運搬具 減価償却累計額 | △ 30,948 | - | △ 18,968 | - | △ 11,980 | 63.2 |
| 工 具 、 器 具 及 び 備 品 | 11,860,092 | 0.1 | 11,402,762 | 0.1 | 457,330 | 4.0 |
| 工具、器具及び備品 減価償却累計額 | △ 7,162,905 | - | △ 5,977,415 | - | △ 1,185,490 | 19.8 |
| リ ー ス 資 産 | 505,993 | 0.0 | 858,505 | 0.0 | △ 352,512 | △ 41.1 |
| リース資産 減価償却累計額 | △ 455,392 | - | △ 647,954 | - | 192,562 | △ 29.7 |
| 建 設 仮 勘 定 | 78,754,174 | 1.2 | 63,018,137 | 0.9 | 15,736,037 | 25.0 |
| 無 形 固 定 資 産 | 2,785,920,335 | 42.5 | 2,967,077,502 | 43.9 | △ 181,157,167 | △ 6.1 |
| ダ ム 使 用 権 | 2,782,720,703 | 42.4 | 2,963,379,506 | 43.8 | △ 180,658,803 | △ 6.1 |
| 電 話 加 入 権 | 37,591 | 0.0 | 37,591 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 庁 舎 利 用 権 | 3,162,041 | 0.0 | 3,660,405 | 0.1 | △ 498,364 | △ 13.6 |
| 投 資 そ の 他 の 資 産 | 50,000,000 | 0.8 | 99,913,000 | 1.5 | △ 49,913,000 | △ 50.0 |
| 投 資 有 価 証 券 | 0 | 0.0 | 49,913,000 | 0.7 | △ 49,913,000 | 皆減 |
| そ の 他 投 資 | 50,000,000 | 0.8 | 50,000,000 | 0.7 | 0 | 0.0 |
| 破 産 更 正 債 権 等 | 5,165,476 | 0.1 | 5,209,522 | 0.1 | △ 44,046 | △ 0.8 |
| 破産更正債権等 貸倒引当金 | △ 5,165,476 | △ 0.1 | △ 5,209,522 | △ 0.1 | 44,046 | △ 0.8 |
| 流 動 資 産 | 935,533,640 | 14.3 | 841,614,885 | 12.4 | 93,918,755 | 11.2 |
| 現 金 ・ 預 金 | 858,587,042 | 13.1 | 767,189,082 | 11.3 | 91,397,960 | 11.9 |
| 未 収 金 | 27,033,598 | 0.4 | 24,529,803 | 0.4 | 2,503,795 | 10.2 |
| 有 価 証 券 | 49,913,000 | 0.8 | 49,896,000 | 0.7 | 17,000 | 0.0 |
| 資 産 合 計 | 6,557,057,495 | 100.0 | 6,769,698,097 | 100.0 | △ 212,640,602 | △ 3.1 |

| 区 分 科 目 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|-------------------------|----------------------|-------------|----------------------|-------------|----------------------|---------------|
| | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 固 定 負 債 | 474,814,117 | 7.2 | 543,464,722 | 8.0 | △ 68,650,605 | △ 12.6 |
| 企 業 債 | 344,197,979 | 5.2 | 385,364,172 | 5.7 | △ 41,166,193 | △ 10.7 |
| 建設改良費等の財源に 充てるための企業債 | 344,197,979 | 5.2 | 385,364,172 | 5.7 | △ 41,166,193 | △ 10.7 |
| リ ー ス 債 務 | 0 | 0.0 | 54,649 | 0.0 | △ 54,649 | 皆減 |
| 引 当 金 | 130,616,138 | 2.0 | 158,045,901 | 2.3 | △ 27,429,763 | △ 17.4 |
| 退職給付引当金 | 32,307,000 | 0.5 | 29,413,000 | 0.4 | 2,894,000 | 9.8 |
| 修繕引当金 | 98,309,138 | 1.5 | 128,632,901 | 1.9 | △ 30,323,763 | △ 23.6 |
| 流 動 負 債 | 97,158,150 | 1.5 | 80,215,485 | 1.2 | 16,942,665 | 21.1 |
| 企 業 債 | 41,166,193 | 0.7 | 42,776,050 | 0.7 | △ 1,609,857 | △ 3.8 |
| 建設改良費等の財源に 充てるための企業債 | 41,166,193 | 0.7 | 42,776,050 | 0.7 | △ 1,609,857 | △ 3.8 |
| リ ー ス 債 務 | 54,649 | 0.0 | 172,746 | 0.0 | △ 118,097 | △ 68.4 |
| 未 払 金 | 53,352,217 | 0.8 | 34,613,046 | 0.5 | 18,739,171 | 54.1 |
| 引 当 金 | 2,359,087 | 0.0 | 2,425,405 | 0.0 | △ 66,318 | △ 2.7 |
| 賞与引当金 | 1,985,335 | 0.0 | 2,040,070 | 0.0 | △ 54,735 | △ 2.7 |
| 法定福利費引当金 | 373,752 | 0.0 | 385,335 | 0.0 | △ 11,583 | △ 3.0 |
| その他流動負債 | 226,004 | 0.0 | 228,238 | 0.0 | △ 2,234 | △ 1.0 |
| 繰 延 収 益 | 4,528,334,153 | 69.1 | 4,728,298,171 | 69.8 | △ 199,964,018 | △ 4.2 |
| 長期前受金 | 4,528,334,153 | 69.1 | 4,728,298,171 | 69.8 | △ 199,964,018 | △ 4.2 |
| 受贈財産評価額 | 47,293,904 | 0.3 | 47,293,904 | 0.3 | 0 | 0.0 |
| 受贈財産評価額 収益化累計額 | △ 25,556,644 | - | △ 24,457,499 | - | △ 1,099,145 | 4.5 |
| 工事負担金 | 150,230,979 | 0.9 | 150,230,979 | 0.9 | 0 | 0.0 |
| 工事負担金 収益化累計額 | △ 90,616,178 | - | △ 87,403,948 | - | △ 3,212,230 | 3.7 |
| 国庫補助金 | 15,203,416,790 | 64.8 | 15,122,913,250 | 65.7 | 80,503,540 | 0.5 |
| 国庫補助金 収益化累計額 | △ 10,951,325,953 | - | △ 10,673,626,788 | - | △ 277,699,165 | 2.6 |
| 他会計補助金 | 767,352,986 | 3.0 | 755,875,002 | 2.9 | 11,477,984 | 1.5 |
| 他会計補助金 収益化累計額 | △ 572,461,731 | - | △ 562,526,729 | - | △ 9,935,002 | 1.8 |
| 負 債 合 計 | 5,100,306,420 | 77.8 | 5,351,978,378 | 79.1 | △ 251,671,958 | △ 4.7 |

| 区 分 科 目 | 令和元年度 | | 平成30年度 | | 対前年度比較 | |
|--------------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|
| | 金額(A) | 構成比 | 金額(B) | 構成比 | (A) - (B) | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 資 本 金 | 618,453,928 | 9.4 | 587,426,051 | 8.7 | 31,027,877 | 5.3 |
| 資 本 金 | 618,453,928 | 9.4 | 587,426,051 | 8.7 | 31,027,877 | 5.3 |
| 固 有 資 本 金 | 524,570 | 0.0 | 524,570 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 組 入 資 本 金 | 617,929,358 | 9.4 | 586,901,481 | 8.7 | 31,027,877 | 5.3 |
| 剰 余 金 | 838,297,147 | 12.8 | 830,293,668 | 12.3 | 8,003,479 | 1.0 |
| 資 本 剰 余 金 | 409,992,468 | 6.2 | 409,992,468 | 6.1 | 0 | 0.0 |
| 工 事 負 担 金 | 1,551,026 | 0.0 | 1,551,026 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 国 庫 補 助 金 | 87,297,576 | 1.3 | 87,297,576 | 1.3 | 0 | 0.0 |
| 他 会 計 補 助 金 | 321,143,866 | 4.9 | 321,143,866 | 4.7 | 0 | 0.0 |
| 利 益 剰 余 金 | 428,304,679 | 6.5 | 420,301,200 | 6.3 | 8,003,479 | 1.9 |
| 減 債 積 立 金 | 242,837,318 | 3.7 | 273,195,368 | 4.0 | △ 30,358,050 | △ 11.1 |
| 建 設 改 良 積 立 金 | 146,436,005 | 2.2 | 130,037,147 | 1.9 | 16,398,858 | 12.6 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 39,031,356 | 0.6 | 17,068,685 | 0.3 | 21,962,671 | 128.7 |
| 資 本 合 計 | 1,456,751,075 | 22.2 | 1,417,719,719 | 20.9 | 39,031,356 | 2.8 |
| 負 債 資 本 合 計 | 6,557,057,495 | 100.0 | 6,769,698,097 | 100.0 | △ 212,640,602 | △ 3.1 |

(注) 有形固定資産の構成比は減価償却累計額控除後の比率である。

(注) 長期前受金の構成比は収益化累計額控除後の比率である。

(注) 「構成比」欄は、四捨五入の関係上、内訳の合計と計数が一致しない場合がある。

令和元年度末における資産の合計は65億5,705万7,495円で、前年度に比較して2億1,264万602円(3.1%)減少している。これは、固定資産が3億655万9,357円(5.2%)減少し、流動資産が9,391万8,755円(11.2%)増加したことによるものである。

負債の合計は51億30万6,420円で、前年度に比較して2億5,167万1,958円(4.7%)減少している。これは、主に繰延収益が1億9,996万4,018円(4.2%)減少したことによるものである。

資本の合計は14億5,675万1,075円で、前年度に比較して3,903万1,356円(2.8%)増加している。これは、主に減債積立金及び建設改良積立金の組入により、資本金が3,102万7,877円(5.3%)増加したことによるものである。

各科目の動向は、次のとおりである。

(ア) 固定資産

固定資産は、前年度に比較して3億655万9,357円(5.2%)減少している。

これは、ダム使用権の減価償却による減などにより、無形固定資産が1億8,115万7,167円(6.1%)減少したことなどによるものである。

(イ) 流動資産

流動資産は、前年度に比較して9,391万8,755円(11.2%)増加している。

これは、現金・預金が9,139万7,960円(11.9%)増加したことによるものである。

(ロ) 固定負債

固定負債は、前年度に比較して6,865万605円(12.6%)減少している。

これは、主に決算整理に伴う令和2年度企業債元金償還額の流動負債への振替により、企業債が4,116万6,193円(10.7%)減少したことによるものである。

(ハ) 流動負債

流動負債は、前年度に比較して1,694万2,665円(21.1%)増加している。

これは、建設改良工事等の未払金計上額の増により、未払金が1,873万9,171円(54.1%)増加したことによるものである。

(ニ) 繰延収益

繰延収益は、前年度に比較して1億9,996万4,018円(4.2%)減少している。

これは、減価償却等により、長期前受金が同額減少したことによるものである。

(ホ) 資本金

資本金は、前年度に比較して3,102万7,877円(5.3%)増加している。

これは、減債積立金及び建設改良積立金からの組入によるものである。

(ヘ) 剰余金

剰余金は、前年度に比較して800万3,479円(1.0%)増加している。

これは、減債積立金が3,035万8,050円(11.1%)減少したものの、当年度未処分利益剰余金が2,196万2,671円(128.7%)、建設改良積立金1,639万8,858円(12.6%)それぞれ増加したことによるものである。

イ 主な経営分析指標

令和元年度末の財政状態を示す主な経営分析指標は、表31のとおりである。

(ア) 自己資本構成比率

総資本に占める自己資本の割合を表すもので、比率が大きいほど自己資本が投下されていることを示すものであり、当年度は91.3%で前年度に比較して0.5ポイント上回っている。

これは、自己資本と剰余金及び繰延収益の合計が2.6%減少したが、負債資本の合計がそれを上回る3.1%減少したことによるものである。

全国平均（平成30年度）の71.3%に比較して20.0ポイント高い状況にある。

(イ) 固定資産対長期資本比率

固定資産が長期資本によって賄われている度合いを示す比率で、100%以下を理想とし100%を超えれば過大投資であると言える。

当年度は87.0%で前年度に比較して1.6ポイント下回っている。

これは、長期資本が3.4%減少したが、固定資産がそれを上回る5.2%減少したことによるものである。

全国平均の88.5%に比較して1.5ポイント低い状況にある。

(ウ) 流動比率

流動負債に対する流動資産の割合を表すもので、比率が大きいほど良好であり、当年度は962.9%で前年度に比較して86.3ポイント下回っている。

これは、流動資産が11.2%増加したが、流動負債がそれを上回る21.1%増加したことによるものである。

全国平均の390.9%に比較して、572.0ポイント高い状況にある。

表31 経営分析指標

| 区分 | 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 前年度 比較 | H30年度 全国平均 |
|---------------------|----|--------|---------|-------|-----------|---------------|
| 自己資本 構成比率 (%) | | 90.3 | 90.8 | 91.3 | 0.5 | 71.3 |
| 固定資産対 長期資本比率 (%) | | 89.7 | 88.6 | 87.0 | △ 1.6 | 88.5 |
| 流動比率 (%) | | 779.8 | 1,049.2 | 962.9 | △ 86.3 | 390.9 |

(注) 1 自己資本構成比率 (%) = $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$

2 固定資産対長期資本比率 (%) = $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

3 流動比率 (%) = $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$

3 キャッシュ・フローの状況について

令和元年度のキャッシュ・フローの状況は、表32のとおりである。

当年度は、業務活動によるキャッシュ・フローが7,014万3,239円の増、投資活動によるキャッシュ・フローが6,403万771円の増、財務活動によるキャッシュ・フローが4,277万6,050円の減となり、差引き9,139万7,960円の資金増となり、資金期首残高7億6,718万9,082円を加えた8億5,858万7,042円が資金期末残高となっている。

この残高の内訳は、普通預金が8万7,042円、定期預金7億1,000万円、外貨預金1億4,850万円であり、取扱金融機関の残高証明書と一致している。

なお、工業用水道事業会計の資金は、「沖縄県企業局資金運用要領」に基づき運用されており、今年度の運用収入は64万9,327円で、前年度に比較して45万8,400円（41.4%）減少している。

また、年度中途における一時的な資金不足を補うため、令和元年度予算で一時借入金の限度額2億円を定めているが、借入れは行われていない。

表32 キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

| | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 業務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 当年度純利益 | 39,031,356 |
| 減価償却費 | 340,743,442 |
| 資産減耗費 | 598,183 |
| 固定資産売却益 | △ 6,681 |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | 2,894,000 |
| 修繕引当金の増減額 (△は減少) | △ 30,323,763 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | △ 61,120 |
| 法定福利費引当金の増減額 (△は減少) | △ 12,936 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △ 44,046 |
| 長期前受金戻入額 | △ 296,572,467 |
| 受取利息及び配当金 | △ 649,327 |
| 支払利息 | 8,092,066 |
| 未収金の増減額 (△は増加) | △ 2,459,749 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | 16,359,254 |
| 預り金等の増減額 (△は減少) | △ 2,234 |
| 小計 | 77,585,978 |
| 利息及び配当金の受取額 | 649,327 |
| 利息の支払額 | △ 8,092,066 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 70,143,239 |
| 2 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △ 86,836,574 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 12,647 |
| 投資（有価証券）の償還による収入 | 49,896,000 |
| 国庫補助金による収入 | 88,540,698 |
| 一般会計からの繰入金による収入 | 12,418,000 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 64,030,771 |
| 3 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 | △ 42,776,050 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 42,776,050 |
| 資金増加額（又は減少額） | 91,397,960 |
| 資金期首残高 | 767,189,082 |
| 資金期末残高 | 858,587,042 |

別 表

別表

経営分析指標（工水）

| 区分 | 算式 | 令和元年度計算内訳 | 比率 | | | H30年度 全国平均 | |
|--|-------------------------------|---|--|---------|---------|---------------|---------|
| | | | 令和元年度 | 平成30年度 | 増△減 | | |
| 資産 及 び 本 構 成 比 率 | (1) 固定資産 構成比率(%) | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資産合計}} \times 100$ | 次の数値及び左の算式による。 固定資産 5,621,523,855 資産合計 6,557,057,495 | 85.7 | 87.6 | △ 1.9 | 85.2 |
| | (2) 固定負債 構成比率(%) | $\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$ | 固定負債 474,814,117 負債資本合計 6,557,057,495 | 7.2 | 8.0 | △ 0.8 | 24.9 |
| | (3) 自己資本 構成比率(%) | $\frac{\text{資本金+剰余金+繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$ | 資本金 618,453,928 剰余金 838,297,147 繰延収益 4,528,334,153 負債資本合計 6,557,057,495 | 91.3 | 90.8 | 0.5 | 71.3 |
| | (4) 固定資産対長 期資本比率(%) | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+固定負債+繰延収}} \times 100$ | 固定資産 5,621,523,855 資本金 618,453,928 剰余金 838,297,147 固定負債 474,814,117 繰延収益 4,528,334,153 | 87.0 | 88.6 | △ 1.6 | 88.5 |
| | (5) 固定比率(%) | $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+繰延収益}} \times 100$ | 固定資産 5,621,523,855 資本金 618,453,928 剰余金 838,297,147 繰延収益 4,528,334,153 | 93.9 | 96.5 | △ 2.6 | 119.5 |
| | (6) 流動比率(%) | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 流動資産 935,533,640 流動負債 97,158,150 | 962.9 | 1,049.2 | △ 86.3 | 390.9 |
| | (7) 酸性試験比率(%) | $\frac{\text{現金預金+未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 現金預金 858,587,042 未収金 27,033,598 流動負債 97,158,150 | 911.5 | 987.0 | △ 75.5 | 347.4 |
| | (8) 現金比率(%) | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 現金預金 858,587,042 流動負債 97,158,150 | 883.7 | 956.4 | △ 72.7 | 324.6 |
| 回 転 率 | (1) 自己資本回転率 (回) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{(期末自己資本+期首自己資本)} \div 2}$ | 営業収益 292,023,200 受託工事収益 0 期末自己資本 5,985,085,228 期首自己資本 6,146,017,890 | 0.05 | 0.04 | 0.01 | 0.13 |
| | (2) 固定資産回転率 (回) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{(期末固定資産+期首固定資産)} \div 2}$ | 営業収益 283,948,805 受託工事収益 0 期末固定資産 5,621,523,855 期首固定資産 5,928,083,212 | 0.05 | 0.05 | 0.00 | 0.07 |
| | (3) 減価償却率(%) | $\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{有形固定資産+無形固定資産-土地-建設仮勘定+当年度減価償却費}} \times 100$ | 当年度減価償却費 340,743,442 有形固定資産 2,785,603,520 無形固定資産 2,785,920,335 土地 118,352,118 建設仮勘定 78,754,174 当年度減価償却費 340,743,442 | 5.96 | 5.92 | 0.04 | 3.94 |
| | (4) 流動資産回転率 (回) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{(期末流動資産+期首流動資産)} \div 2}$ | 営業収益 292,023,200 受託工事収益 0 期末流動資産 935,533,640 期首流動資産 841,614,885 | 0.33 | 0.33 | 0.00 | 0.42 |
| | (5) 現金預金回転率 (回) | $\frac{\text{当年度支出額}}{\text{(期末現金預金+期首現金預金)} \div 2}$ | 当年度支出額 439,338,227 期末現金預金 858,587,042 期首現金預金 767,189,082 | 0.54 | 0.57 | △ 0.03 | - |
| | (6) 貯蔵品回転率 (回) | $\frac{\text{期首貯蔵品+購入貯蔵品+発生貯蔵品-期末貯蔵品}}{\text{(期末貯蔵品+期首貯蔵品)} \div 2}$ | - | - | - | - | - |
| | (7) 未収金回転率 (回) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{(期首未収金+期末未収金)} \div 2}$ | 営業収益 292,023,200 受託工事収益 0 期末未収金 27,033,598 期首未収金 24,529,803 | 11.33 | 7.52 | 3.81 | 6.86 |
| 損 益 に 関 す る 各 種 比 率 | (1) 総資本利益率 (%) | $\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{(期末総資本+期首総資本)} \div 2} \times 100$ | 当年度経常利益 39,025,636 期末総資本 6,557,057,495 期首総資本 6,769,698,097 | 0.59 | 0.25 | 0.34 | - |
| | (2) 総収益対 総費用比率(%) | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 総収益 643,504,028 総費用 604,472,672 | 106.5 | 102.7 | 3.8 | 116.6 |
| | (3) 営業収益対 営業費用比率 (%) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{営業費用-受託工事費用}} \times 100$ | 営業収益 292,023,200 受託工事収益 0 営業費用 588,380,214 受託工事費用 0 | 49.6 | 45.1 | 4.5 | 106.7 |
| | (4) 利子負担率(%) | $\frac{\text{支払利息+企業債取扱諸費}}{\text{企業債+他会計借入金+一時借入金+リース債務}} \times 100$ | 支払利息 8,092,066 企業債取扱諸費 0 企業債 385,364,172 他会計借入金 0 一時借入金 0 リース債務 54,649 | 2.1 | 2.1 | 0.0 | 1.2 |
| | (5) 企業債償還額対 減価償却費比率 (%) | $\frac{\text{企業債償還額}}{\text{当年度減価償却費-長期前受金戻入}} \times 100$ | 企業債償還額 42,776,050 当年度減価償却費 340,743,442 長期前受金戻入 296,572,467 | 96.8 | 96.2 | 0.6 | 66.7 |
| | (6) 職員一人当たり 営業収益 (千円) | $\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$ | 営業収益 292,023,200 受託工事収益 0 損益勘定所属職員数 3 | 97,341 | 92,000 | 5,341 | 88,188 |
| | (7) 職員一人当たり 有形固定資産 (千円) | $\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数+資本勘定所属職員数}}$ | 期末有形固定資産 2,785,603,520 損益勘定所属職員数 3 資本勘定所属職員数 1 | 696,401 | 715,273 | △ 18,872 | 820,986 |

